

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に、高知県内の観光地 10 地点で四季別にアンケート調査を実施し、結果をとりまとめたものである。

調査精度の均一化を図るため、調査員による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も 10 時から 17 時頃まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて 1 グループに 1 名 (1 回答) を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

● 調査場所 (10 ヶ所)

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、桂浜、高知城、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川、足摺岬

● 調査時期

- ・ 冬季：平成 29 年 1 月 2 日～平成 29 年 2 月 18 日
- ・ 春季：平成 29 年 6 月 3 日～平成 29 年 6 月 24 日
- ・ 夏季：平成 29 年 7 月 22 日～平成 29 年 8 月 19 日
- ・ 秋季：平成 29 年 10 月 7 日～平成 29 年 11 月 25 日

1 日で十分なサンプル数を得ることができなかった冬季の足摺岬、春季の桂浜、夏季の高知城、秋季の桂浜、室戸岬、龍河洞では 2 日間調査を行っており、冬季のモネの庭は 3 日間調査を行っている。

● 調査結果の概要

宿泊客が増加したものの、県内旅行日数は0.1日減少の2.0日。

日帰り客と宿泊客の割合（P17：表 3-1）は、「日帰り」の割合が前年比で1.2ポイント減少の36.0%と宿泊客全体は増加したものの、「2泊3日」以上の割合も減少。その影響により、県内旅行の平均日数（P24：図 5-1）は2.0日と前年比で0.1日減少となった。発地ブロック別では、「北海道」を除く全てのブロックで減少している。

「近畿」の入込割合が2.4ポイントと大きく減少。「関東」は過去4年を通じて最大。

発地ブロック別入込割合（P20：表 4-1）は、「近畿」の割合が前年比で2.4ポイントと大きく減少したことが目立った。「関東」は平成25年度以降の調査で最大の15.1%となり、「四国」「近畿」に続いて3番目に入込が多いブロックとなった。

「家族」旅行が1.5ポイント減少。少人数での旅行が増加。

旅行形態割合（P29：表 8-1）は、「家族」の割合が前年比で1.5ポイント減少となり、「1人」や「友人知人」が増加。同行者数割合（P30：表 8-2）は、「2～3人」が増加した一方で、「4～5人」や「6～10人」が減少している。

県内平均消費額は、310円減少の25,829円で過去4年を通じて最小。

県内平均消費額（P35：図 10-1）は、前年比で310円減少の25,829円となり、平成25年度以降の調査で最小。四季別（P38：表 10-2）で見ると、夏季が前年比で1,195円、秋季が521円と増加したものの、冬季が1,737円、春季が1,436円と大きく減少したため、年間平均を押し下げる結果となった。

費目ごとの変動（P35：図 10-1 参考①）は、「交通費」が前年比で493円、「土産代」が99円の減少となり、「宿泊費」が175円、入場料等を含む「その他」が58円、「飲食費」が49円と、それぞれ増加。「土産代」は平成27年度以降の調査で最小、「飲食費」と「その他」は最大となった。

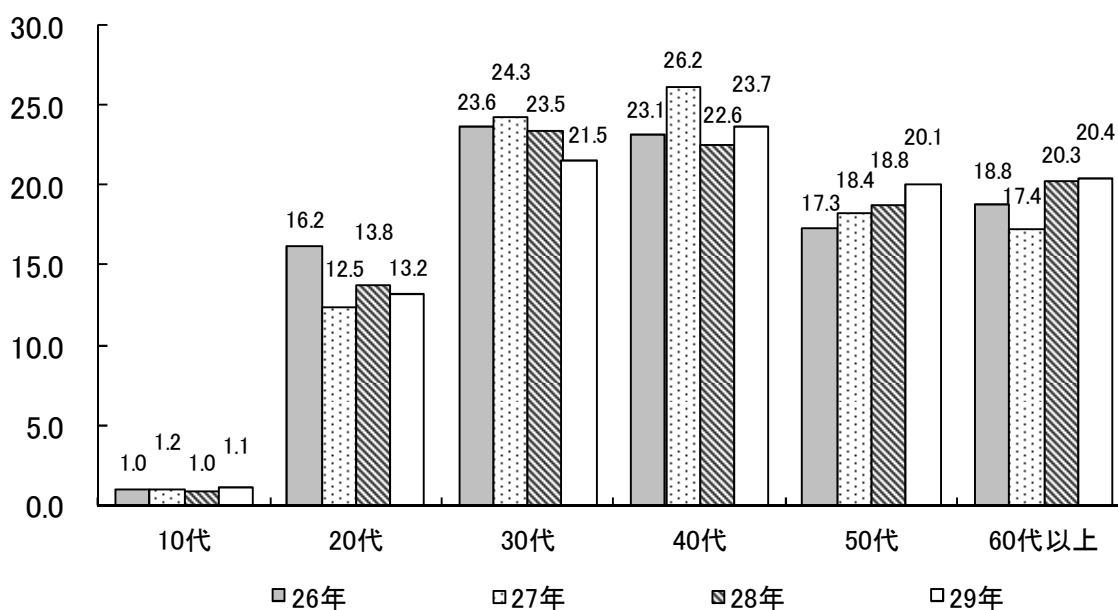
2 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別旅行者割合 (上段：件 下段：%)

	26年 (n=2,883)	27年 (n=2,940)	28年 (n=2,976)	29年 (n=2,696)	対前年比 29年/28年
	10代	29 1.0	35 1.2	31 1.0	
20代	466 16.2	367 12.5	412 13.8	356 13.2	95.7%
30代	680 23.6	715 24.3	698 23.5	581 21.5	91.5%
40代	666 23.1	771 26.2	674 22.6	638 23.7	104.9%
50代	500 17.3	541 18.4	558 18.8	541 20.1	106.9%
60代以上	542 18.8	511 17.4	603 20.3	551 20.4	100.5%

※nは、その年の総旅行者

(図 2-2) 年代別旅行者割合 (%) [29年、過去3年間]



(表 2-1 参考①) 年代別性別旅行者割合 (上段: 件 下段: %)

	平成27年 (n=2,940)		平成28年 (n=2,976)		平成29年 (n=2,696)	
	男	女	男	女	男	女
10 代	17	18	20	11	17	12
	48.6	51.4	64.5	35.5	58.6	41.4
20 代	206	161	219	193	196	160
	56.1	43.9	53.2	46.8	55.1	44.9
30 代	407	308	395	303	317	264
	56.9	43.1	56.6	43.4	54.6	45.4
40 代	466	305	401	273	393	245
	60.4	39.6	59.5	40.5	61.6	38.4
50 代	339	202	354	204	339	202
	62.7	37.3	63.4	36.6	62.7	37.3
60代以上	329	182	399	204	358	193
	64.4	35.6	66.2	33.8	65.0	35.0
計	1,764	1,176	1,788	1,188	1,620	1,076
	60.0	40.0	60.1	39.9	60.1	39.9

年代別旅行者割合をみると (P15:図 2-2)、40 代が 23.7%と最も多く、次いで 30 代が 21.5%、60 代以上が 20.4%と続いている。前年と比べ 20 代と 30 代が減少し、60 代以上がほぼ横ばい、その他の年代が増加している。

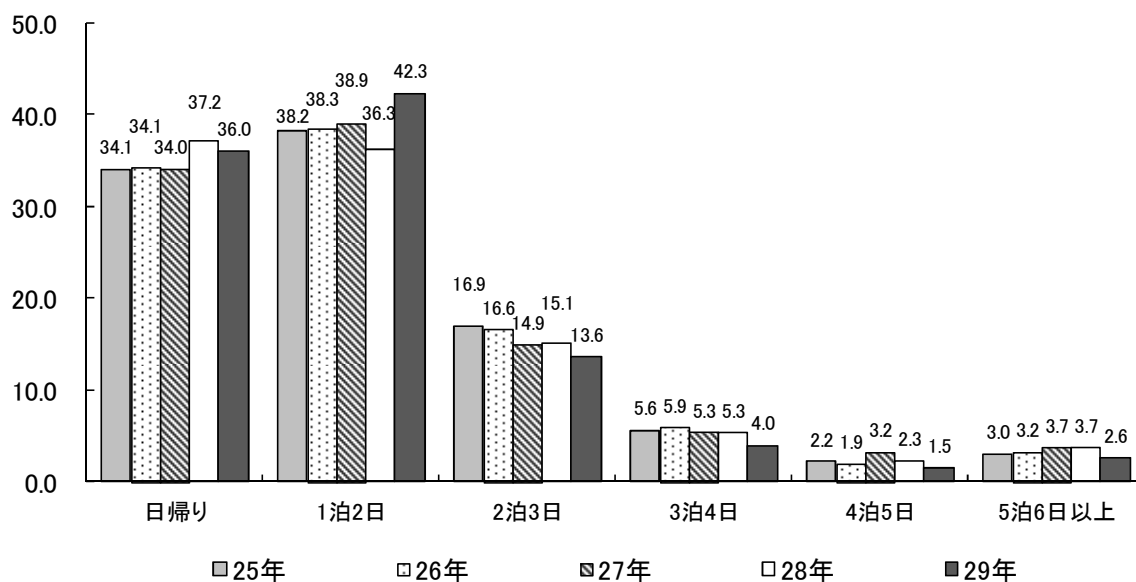
男女比は (表 2-1 参考①)、男性が 60.1%、女性が 39.9%となっており、全ての年代で男性の割合が、女性の割合を上回っている。

3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合 (上段：件 下段：%)

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
25年 (n=2,873)	981 34.1	1,096 38.2	486 16.9	162 5.6	62 2.2	86 3.0
26年 (n=2,883)	984 34.1	1,104 38.3	478 16.6	169 5.9	54 1.9	94 3.2
27年 (n=2,940)	1,000 34.0	1,143 38.9	438 14.9	157 5.3	95 3.2	107 3.7
28年 (n=2,976)	1,106 37.2	1,079 36.3	449 15.1	157 5.3	67 2.3	118 3.7
29年 (n=2,696)	971 36.0	1,141 42.3	367 13.6	107 4.0	41 1.5	69 2.6

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合 (%)



日帰り客と宿泊客の割合をみると（P17:図3-2）、「1泊2日」が42.3%と最も多く、次いで「日帰り」が36.0%、「2泊3日」が13.6%と続いている。

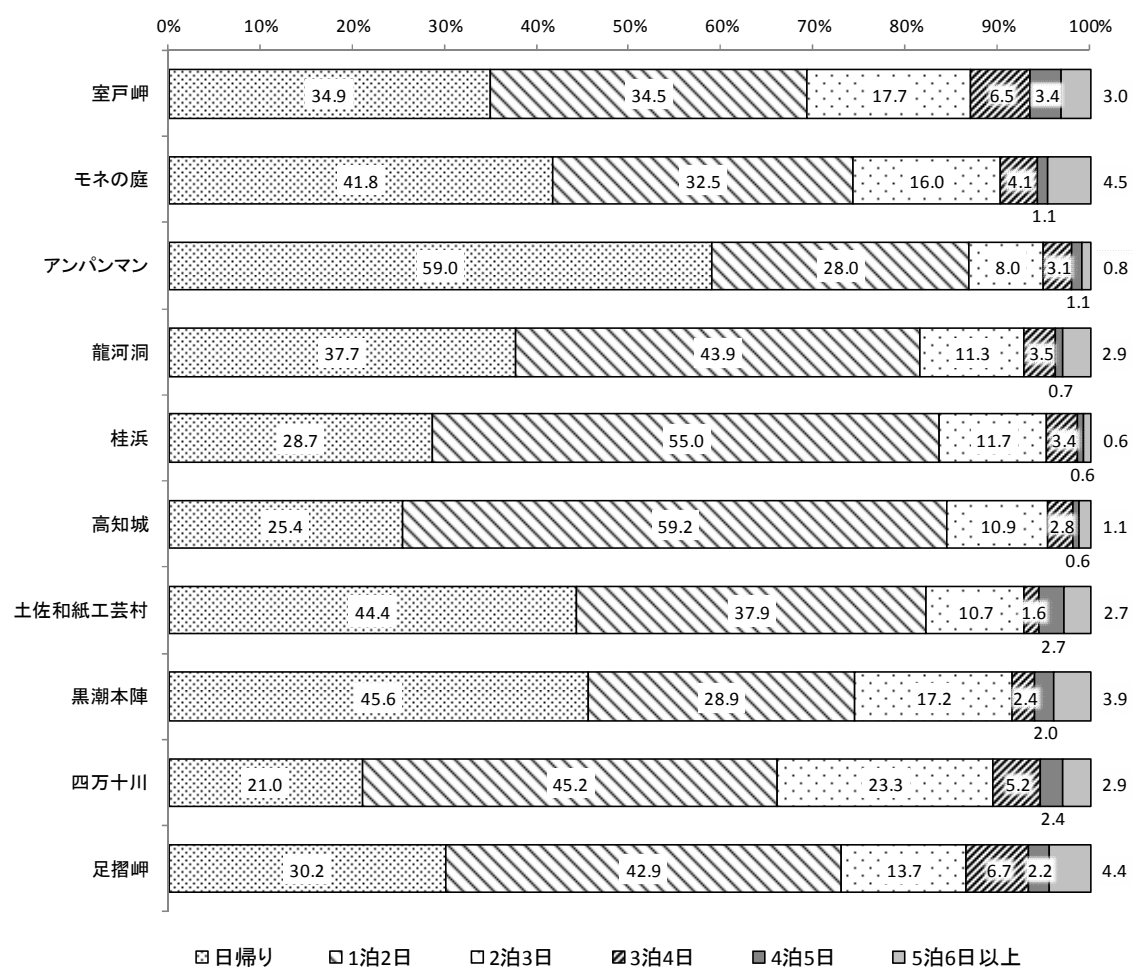
前年と比べ「1泊2日」が6.0ポイント増加しており、その反面で「2泊3日」が1.5ポイント、「日帰り」が1.2ポイント、「5泊6日以上」が1.1ポイントと、それぞれ減少している。平成25年度の調査から通してみると、「1泊2日」の割合は過去最大となっている。

（表3-3） 四季別日帰り客・宿泊客割合（上段：件 下段：%）

		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	28年	237	254	120	48	23	53
		32.2	34.6	16.3	6.5	3.1	7.2
	29年	187	234	64	25	8	28
		34.2	42.9	11.7	4.6	1.5	5.1
春	28年	319	293	91	22	5	14
		42.9	39.4	12.2	2.9	0.7	1.9
	29年	295	242	71	23	9	9
		45.5	37.3	10.9	3.5	1.4	1.4
夏	28年	283	259	122	55	33	41
		35.7	32.6	15.4	6.9	4.2	5.2
	29年	232	338	116	35	18	22
		30.5	44.4	15.2	4.6	2.4	2.9
秋	28年	267	273	116	32	6	10
		37.9	38.8	16.5	4.5	0.9	1.4
	29年	257	327	116	24	6	10
		34.7	44.2	15.7	3.2	0.8	1.4

四季別データ（表3-3）を前年と比べると、冬季は「1泊2日」が8.3ポイント増加し、「2泊3日」が4.6ポイント減少となっている。春季は「日帰り」が2.6ポイント増加し、「1泊2日」が2.1ポイント減少している。夏季は「1泊2日」が11.8ポイント増加し、「日帰り」が5.2ポイント減少している。秋季は「1泊2日」が5.4ポイント増加し、「日帰り」が3.2ポイント減少となっている。

(図 3-1 参考①) 調査地別日帰り客・宿泊客割合 (%) [29 年]



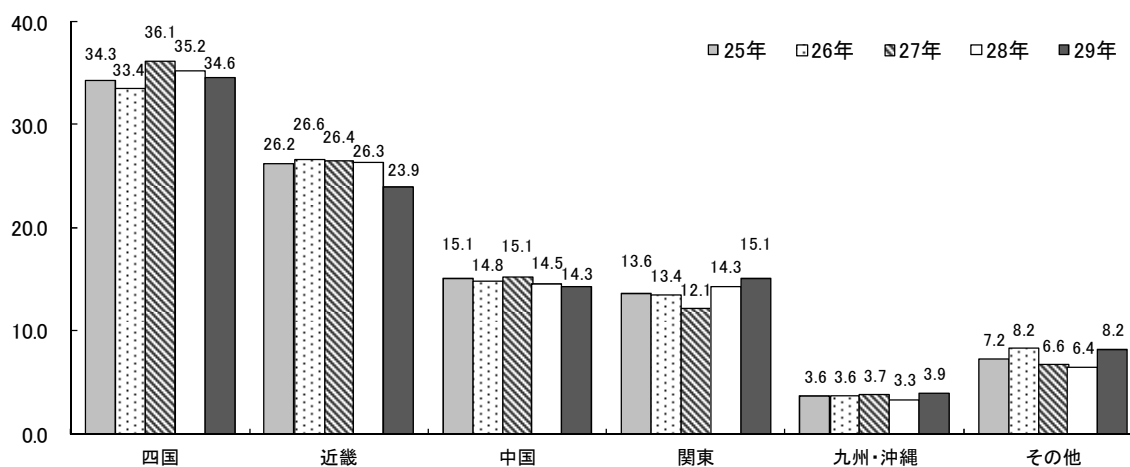
日帰り客と宿泊客の割合（図 3-1 参考①）を調査地別にみると、「日帰り」の割合はアンパンマンミュージアムが 59.0%と最も多く、次いで黒潮本陣が 45.6%、土佐和紙工芸村が 44.4%と続いている。また、「1泊2日」は高知城が 59.2%と最も多く、次いで桂浜が 55.0%、四万十川が 45.2%と続いている。そのほか、「2泊3日」は四万十川が 23.3%、「3泊4日」は足摺岬が 6.7%、「4泊5日」は室戸岬が 3.4%、「5泊6日以上」はモネの庭が 4.5%と、それぞれ最も多くなっている。

4 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合 (上段：件 下段：%)

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	その他
25年 (n=2,873)	985 34.3	754 26.2	435 15.1	392 13.6	102 3.6	205 7.2
26年 (n=2,883)	962 33.4	766 26.6	428 14.8	387 13.4	105 3.6	235 8.2
27年 (n=2,940)	1,060 36.1	777 26.4	444 15.1	357 12.1	108 3.7	194 6.6
28年 (n=2,976)	1,047 35.2	782 26.3	432 14.5	426 14.3	98 3.3	191 6.4
29年 (n=2,696)	932 34.6	645 23.9	386 14.3	407 15.1	104 3.9	222 8.2

(図 4-2) 発地ブロック別入込割合 (%)



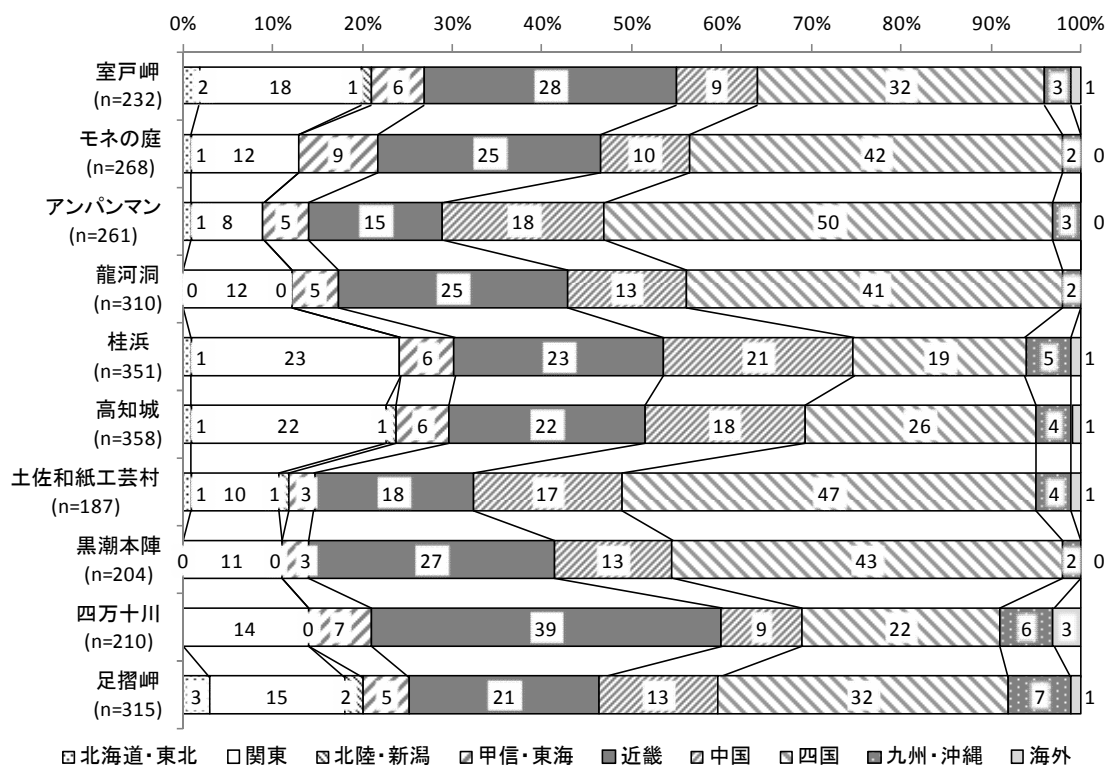
発地ブロック別入込割合をみると、四国が 34.6%と最も多く、次いで近畿が 23.9%、関東が 15.1%と続いている (P21:表 4-1 参考①)。

前年と比べると、その他が 1.8 ポイント、関東が 0.8 ポイント、九州・沖縄が 0.6 ポイントと、それぞれ増加しており、近畿が 2.4 ポイント、四国が 0.6 ポイント、中国が 0.2 ポイントと、それぞれ減少している。平成 25 年度の調査から通してみると、関東と九州・沖縄の割合は過去最大となっており、その一方で近畿と中国は過去最小となっている (表 4-1)。

(表 4-1 参考①) 発地ブロック別入込割合 (上段: 件 下段: %) [全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	甲信・東海	北陸・新潟	東北	北海道	海外
25年 (n=2,873)	985 34.3	754 26.2	435 15.1	392 13.6	102 3.6	134 4.7	32 1.1	22 0.8	16 0.6	1 0.0
26年 (n=2,883)	962 33.4	766 26.6	428 14.8	387 13.4	105 3.6	168 5.8	20 0.7	22 0.8	19 0.7	6 0.2
27年 (n=2,940)	1,060 36.1	777 26.4	444 15.1	357 12.1	108 3.7	130 4.4	32 1.1	15 0.5	11 0.4	6 0.2
28年 (n=2,976)	1,047 35.2	782 26.3	432 14.5	426 14.3	98 3.3	127 4.3	28 0.9	15 0.5	10 0.3	11 0.4
29年 (n=2,696)	932 34.6	645 23.9	386 14.3	407 15.1	104 3.9	152 5.6	15 0.6	21 0.8	11 0.4	23 0.8

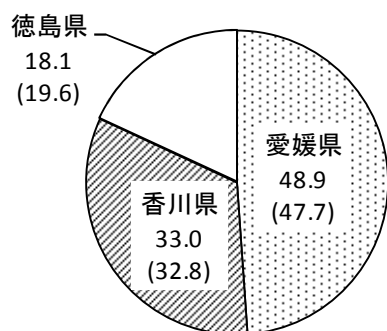
(表 4-1 参考②) 調査地別発地ブロック別入込割合 (%) [29年]



調査地別の発地ブロック別入込割合 (表 4-1 参考②) をみると、アンパンマンミュージアムは四国・中国、桂浜は近畿・関東、高知城は四国・関東、四万十川は近畿・四国、その他の6地点は四国・近畿の順で多くなっている。

四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合は、アンパンマンミュージアムと黒潮本陣が83%と最も多く、次いで土佐和紙工芸村が82%、龍河洞が79%と続いている。また、関東・近畿ブロックの合計は、四万十川が53%と最も多く、次いで室戸岬と桂浜が46%、高知城が44%と続いている。

(図 4-3) ブロック別・四国 (%)

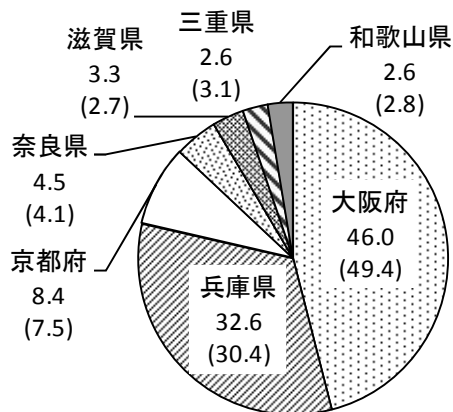


()内の数値は28年

前年と比べ、愛媛が1.2ポイント、香川が0.2ポイント増加しており、徳島が1.5ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で1位、また土佐和紙工芸村など6つの調査地において入込件数の1位となっている。香川は全体の2位、龍河洞など6つの調査地点で2位となっている。徳島は全体の7位、室戸岬で2位となっている (P23:表 4-1 参考③)。

(図 4-4) ブロック別・近畿 (%)

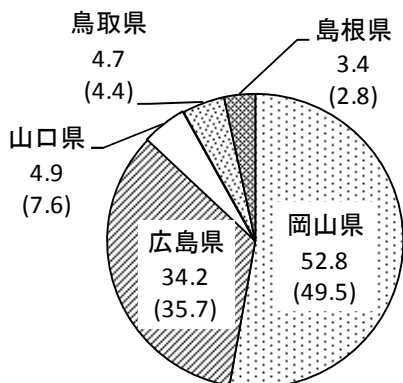


()内の数値は28年

前年と比べ、兵庫が2.2ポイント、京都が0.9ポイント、滋賀が0.6ポイント、奈良が0.4ポイント増加しており、大阪が3.4ポイント、三重が0.5ポイント、和歌山が0.2ポイント減少となっている。大阪と兵庫で78.6%と、近畿ブロックの4分の3を占めている。

大阪は全体の入込割合で3位、2つの調査地で入込件数の1位、1つの調査地で2位となっており、兵庫は全体の入込割合で4位となっている (P23:表 4-1 参考③)。

(図 4-5) ブロック別・中国 (%)



()内の数値は28年

前年と比べ、岡山が3.3ポイント、島根が0.6ポイント、鳥取が0.3ポイント増加しており、山口が2.7ポイント、広島が1.5ポイント減少となっている。岡山と広島の2県で87.0%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で5位、桂浜で入込件数1位となっており、広島は全体の入込割合で8位となっている (P23:表 4-1 参考③)。

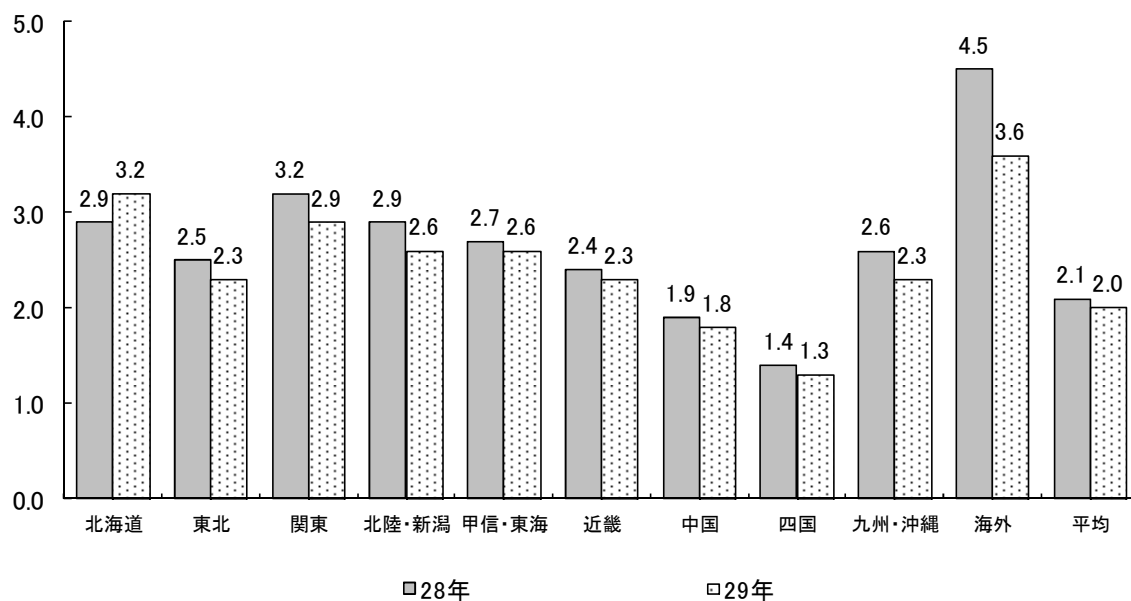
(表 4-1 参考③) 調査地別発地都道府県入込割合 (件) [29 年]

		室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位
県外合計		232	268	261	310	351	358	187	204	210	315	2,696	-
北海道・東北	北海道	0	1	3	0	2	1	0	0	0	4	11	
	青森県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	
	岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
	宮城県	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	4	
	秋田県	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3	
	山形県	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	
	福島県	2	1	0	0	1	1	0	1	0	0	6	
北海道・東北 計		4	2	3	1	5	4	1	1	0	11	32	-
関東	茨城県	1	0	1	3	4	0	1	0	1	3	14	
	栃木県	2	0	1	1	1	1	1	0	1	0	8	
	群馬県	1	2	0	0	2	2	1	0	0	0	8	
	埼玉県	6	5	3	5	5	10	2	3	4	5	48	
	千葉県	3	2	1	4	12	10	1	3	2	5	43	
	東京都	23	16	10	15	29	40	8	9	13	21	184	6
	神奈川県	6	6	4	9	28	16	5	7	9	12	102	9
関東 計		42	31	20	37	81	79	19	22	30	46	407	-
北陸・新潟	新潟県	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	
	富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	
	石川県	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	4	
	福井県	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	4	
北陸・新潟 計		2	0	0	1	0	2	1	1	1	7	15	-
甲信・東海	山梨県	0	0	0	2	1	2	0	1	1	0	7	
	長野県	1	2	0	0	1	1	0	0	2	2	9	
	岐阜県	3	2	2	1	5	3	1	1	1	1	20	
	静岡県	2	3	1	3	3	4	2	1	0	5	24	
	愛知県	8	16	9	11	12	12	3	3	10	8	92	10
甲信・東海 計		14	23	12	17	22	22	6	6	14	16	152	-
近畿	三重県	3	1	1	1	5	0	0	1	4	1	17	
	滋賀県	0	1	0	2	4	2	0	4	3	5	21	
	京都府	5	8	1	10	7	3	4	3	9	4	54	11
	大阪府	38	33	20	33	35	34	14	25	39	26	297	3
	兵庫県	16	21	17	27	19	33	14	20	23	20	210	4
	奈良県	2	3	1	5	7	4	0	1	2	4	29	
	和歌山県	0	0	0	1	5	2	1	1	1	6	17	
近畿 計		64	67	40	79	82	78	33	55	81	66	645	-
中国	鳥取県	1	1	2	3	5	3	1	0	1	1	18	
	島根県	0	1	0	2	1	3	2	1	0	3	13	
	岡山県	13	17	30	20	41	32	11	16	9	15	204	5
	広島県	7	4	12	13	20	24	15	9	8	20	132	8
	山口県	1	3	3	2	5	1	2	0	1	1	19	
中国 計		22	26	47	40	72	63	31	26	19	40	386	-
四国	徳島県	35	20	27	24	10	21	6	8	6	12	169	7
	香川県	20	34	45	49	25	34	21	31	15	33	307	2
	愛媛県	20	58	59	55	33	38	61	49	26	57	456	1
四国 計		75	112	131	128	68	93	88	88	47	102	932	-
九州・沖縄	福岡県	3	1	4	4	4	10	3	1	6	5	41	
	佐賀県	0	2	0	1	0	1	0	1	1	1	7	
	長崎県	0	1	0	0	4	1	0	0	0	1	7	
	熊本県	0	2	0	0	4	0	0	0	1	7	14	
	大分県	3	0	2	1	3	1	1	2	1	3	17	
	宮崎県	0	0	1	1	0	1	1	0	0	2	6	
	鹿児島県	0	0	0	0	2	1	1	0	2	4	10	
	沖縄県	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	
九州・沖縄 計		6	6	7	7	17	15	7	4	12	23	104	-
海外		3	1	1	0	4	2	1	1	6	4	23	-
高知県		168	132	139	90	49	42	213	196	190	85	1,304	-

5 旅行日数

5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数 (日) [29年、28年]



県内旅行日数の平均は、前年と比べ0.1日減少の2.0日となっている。

海外を除いて発地ブロック別にみると、北海道が3.2日で最も多く、次いで関東が2.9日、北陸・新潟と甲信・東海が2.6日と続いている。前年と比べ、北海道を除く全てのブロックで減少となっている。

5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数 [*加重平均] (日)

	25年	26年	27年	28年	29年
10 代	2.0	2.9	2.7	2.2	2.1
20 代	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0
30 代	2.2	2.1	2.2	2.1	2.0
40 代	2.2	2.2	2.3	2.2	2.0
50 代	2.0	2.1	2.0	2.1	1.9
60代以上	2.1	2.0	2.2	2.1	2.1
全 体	2.1	2.1	2.2	2.1	2.0

年代別の県内旅行日数は、10代と60代以上が2.1日で最も多く、次いで20代、30代、40代が2.0日、50代が1.9日と続いている。

前年と比べ、60代以上は横ばい、それ以外の年代で減少となっている。平成25年度の調査から通してみると、20代から50代までの年代で過去最小となっている。

※加重平均：平均値を算出する際に、量の大小を反映させる方法

6 旅行形態別旅行目的割合

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合 (%)

		自然見物・町歩き	休養・慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏霊場巡り	買い物	名所旧跡観光施設	なんとなく	帰省・仕事	その他
1人	27年	17.8	1.9	1.1	3.4	1.1	7.9	8.3	1.1	14.4	18.1	21.9	3.0
	28年	21.4	2.1	3.6	2.9	1.6	6.3	6.5	0.8	11.5	17.7	22.7	2.9
	29年	21.7	2.7	2.7	3.3	0.6	8.2	6.9	0.8	13.7	13.7	23.0	2.7
家族	27年	20.2	4.9	1.0	3.3	0.1	17.5	2.6	2.0	29.4	3.7	14.1	1.2
	28年	19.8	4.6	2.6	3.2	0.6	15.5	3.4	2.1	28.2	3.0	15.8	1.2
	29年	24.3	3.4	1.7	2.9	0.9	16.5	4.2	1.9	27.2	4.9	10.6	1.5
友人知人	27年	20.5	6.2	1.2	6.0	0.9	25.9	1.6	1.2	22.9	7.8	5.1	0.7
	28年	23.9	2.2	4.6	6.1	0.9	28.2	1.5	0.9	17.4	8.2	5.0	1.1
	29年	19.5	3.3	2.6	5.6	0.7	28.8	2.8	0.9	18.4	10.5	5.1	1.8
団体	27年	14.3	3.6	3.6	0.0	10.7	17.8	0.0	0.0	28.6	0.0	10.7	10.7
	28年	18.7	20.8	2.1	4.2	4.2	14.6	0.0	0.0	20.8	2.1	10.4	2.1
	29年	7.4	29.6	1.8	3.7	0.0	13.0	3.7	0.0	9.3	3.7	13.0	14.8
その他	27年	0.0	11.1	0.0	7.4	11.1	22.3	0.0	3.7	18.5	0.0	7.4	18.5
	28年	16.7	4.2	6.2	2.1	6.2	25.0	2.1	2.1	4.2	6.2	10.4	14.6
	29年	20.9	2.3	0.0	2.3	0.0	14.0	7.0	2.3	9.3	16.3	16.3	9.3
全体	27年	19.8	4.9	1.0	3.7	0.5	17.9	3.0	1.8	27.0	5.5	13.4	1.5
	28年	20.5	4.2	3.1	3.6	0.9	16.4	3.5	1.7	23.9	5.8	14.8	1.6
	29年	22.8	3.8	1.9	3.4	0.8	17.3	4.3	1.6	23.3	7.2	11.5	2.1

旅行目的の全体割合をみると、「名所旧跡・観光施設」が前年から0.6ポイント減少したものの23.3%と最も多く、次いで「自然見物・町歩き」が2.3ポイント増加の22.8%、「食べ物」が0.9ポイント増加の17.3%と続いている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、“一人旅”では、「名所旧跡・観光施設」が2.2ポイント増加、「なんとなく（ドライブを含む）」が4.0ポイント減少となっている。“家族旅行”では、「自然見物・町歩き」が4.5ポイント増加、「帰省・仕事」が5.2ポイント減少となり、“友人・知人との旅行”では、「なんとなく（ドライブを含む）」が2.3ポイント増加、「自然見物・町歩き」が4.4ポイント減少、“団体”では、「その他」が12.7ポイント増加、「名所旧跡・観光施設」が11.5ポイント減少となっている。

平成27年度の調査から通してみると、「自然見物・町歩き」「神仏・霊場巡り」などは過去最大、「名所旧跡・観光施設」「休養・慰安」などは過去最小となっている。

7 入込利用交通機関割合

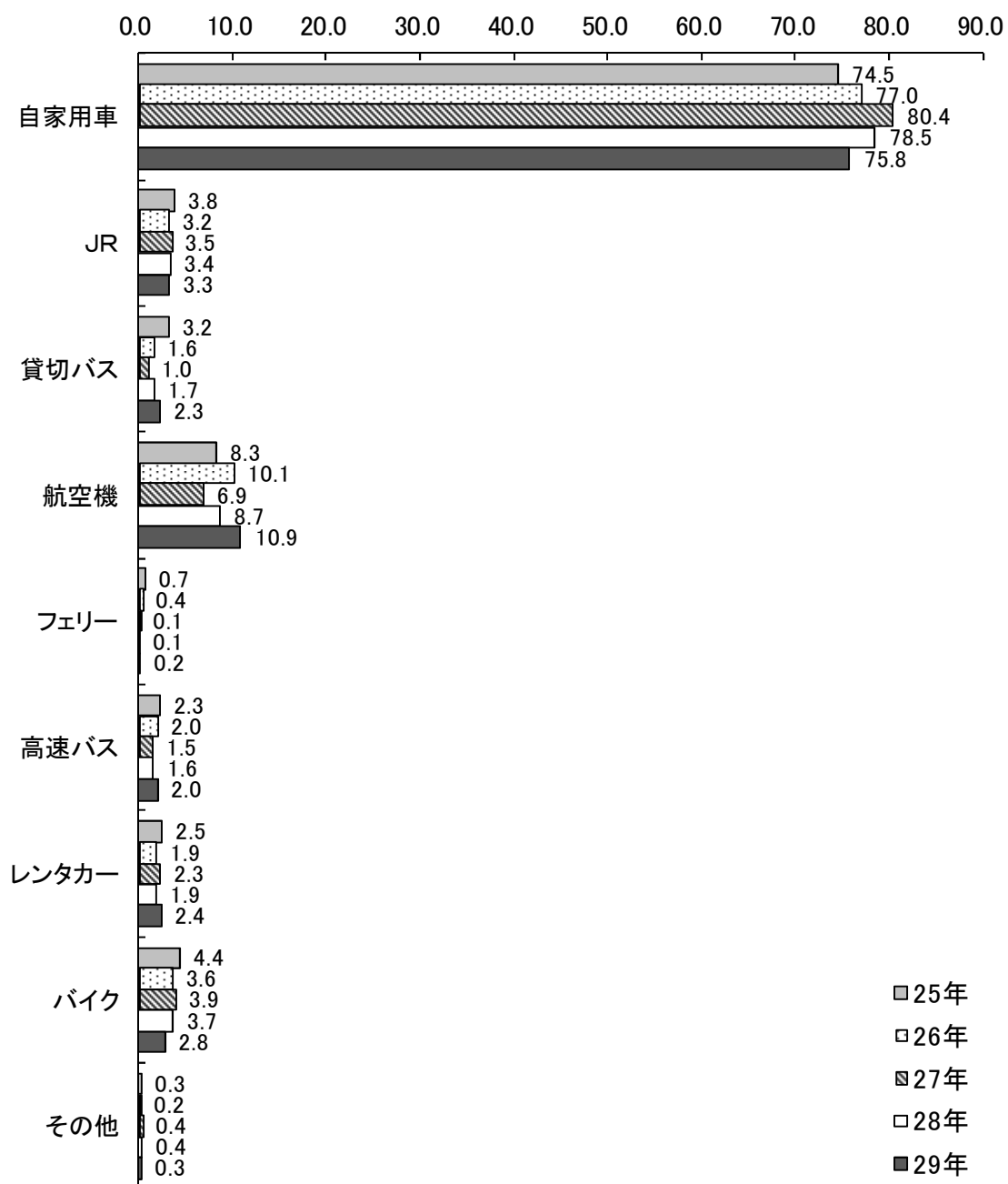
(表 7-1) 入込利用交通機関別割合 (上段：件 下段：%)

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
25年	2,140	110	91	239	19	66	73	127	8
(n=2,873)	74.5	3.8	3.2	8.3	0.7	2.3	2.5	4.4	0.3
26年	2,220	94	46	291	12	57	54	103	6
(n=2,883)	77.0	3.2	1.6	10.1	0.4	2.0	1.9	3.6	0.2
27年	2,364	104	28	201	3	45	67	115	13
(n=2,940)	80.4	3.5	1.0	6.9	0.1	1.5	2.3	3.9	0.4
28年	2,337	99	49	260	3	48	57	110	13
(n=2,976)	78.5	3.4	1.7	8.7	0.1	1.6	1.9	3.7	0.4
29年	2,044	90	61	294	4	54	65	75	9
(n=2,696)	75.8	3.3	2.3	10.9	0.2	2.0	2.4	2.8	0.3

入込利用交通機関は、「自家用車」が前年から2.7ポイント減少したものの75.8%で最も多く、次いで「航空機」が2.2ポイント増加の10.9%、「JR」が0.1ポイント減少の3.3%、「バイク」が0.9ポイント減少の2.8%と続いている。

平成25年度の調査から通してみると、「航空機」は過去最大、「バイク」は過去最小となっている。

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合 (%) [25~29年]



8 旅行形態割合

(表 8-1) 年代別旅行形態割合 (%) [29 年、28 年]

		1人	家族	友人知人	団体	その他
10 代	28年 (n=31)	12.9	64.5	12.9	3.2	6.5
	29年 (n=29)	6.9	62.1	31.0	0.0	0.0
20 代	28年 (n=412)	14.1	38.1	45.1	1.5	1.2
	29年 (n=356)	16.0	37.4	40.2	2.2	4.2
30 代	28年 (n=698)	10.6	69.9	16.7	1.4	1.4
	29年 (n=581)	9.3	66.3	21.5	1.2	1.7
40 代	28年 (n=674)	13.5	77.0	6.4	1.5	1.6
	29年 (n=638)	14.4	72.4	10.8	1.9	0.5
50 代	28年 (n=558)	14.2	72.5	9.5	2.7	1.1
	29年 (n=541)	14.2	76.9	5.4	2.2	1.3
60代以上	28年 (n=603)	12.8	74.3	9.6	1.0	2.3
	29年 (n=551)	15.1	70.8	10.0	2.7	1.4
全 体	28年 (n=2,976)	12.9	68.4	15.5	1.6	1.6
	29年 (n=2,696)	13.5	66.9	16.0	2.0	1.6

旅行形態割合（表 8-1）をみると、「家族」が 66.9%で最も多く、次いで「友人知人」が 16.0%、「1人」が 13.5%、「団体」が 2.0%、「その他」が 1.6%と続いている。

前年と比べ、「1人」が 0.6 ポイント、「友人知人」が 0.5 ポイント、「団体」が 0.4 ポイントと、それぞれ増加しており、「その他」は横ばい、「家族」が 1.5 ポイント減少となっている。

年代別に旅行形態をみると、20 代をのぞく全ての年代で「家族」が最も多く、20 代は「友人知人」が最も多くなっている。

(表 8-2) 年代別同行者数割合 (%) [29 年、28 年]

		1人	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10 代	28年 (n=31)	12.9	54.8	22.6	9.7	0.0
	29年 (n=29)	6.9	34.5	41.4	17.2	0.0
20 代	28年 (n=412)	14.1	62.9	18.4	3.9	0.7
	29年 (n=356)	16.0	67.1	11.5	3.7	1.7
30 代	28年 (n=698)	10.6	56.2	26.5	5.6	1.1
	29年 (n=581)	9.3	60.4	24.9	4.0	1.4
40 代	28年 (n=674)	13.5	53.3	27.1	4.3	1.8
	29年 (n=638)	14.4	57.9	21.6	4.2	1.9
50 代	28年 (n=558)	14.2	65.8	14.3	3.9	1.8
	29年 (n=541)	14.2	69.0	13.3	2.2	1.3
60代以上	28年 (n=603)	12.8	64.3	13.7	7.5	1.7
	29年 (n=551)	15.1	62.8	14.1	5.6	2.4
全 体	28年 (n=2,976)	12.9	59.9	20.6	5.2	1.4
	29年 (n=2,696)	13.5	62.6	18.1	4.1	1.7

同行者数割合 (表 8-2) をみると、「2~3人」が 62.6%で最も多く、次いで「4~5人」が 18.1%、「1人」が 13.5%、「6~10人」が 4.1%、「11人以上」が 1.7%と続いている。

前年と比べ、「2~3人」が 2.7ポイント、「1人」が 0.6ポイント、「11人以上」が 0.3ポイントと、それぞれ増加しており、「4~5人」が 2.5ポイント、「6~10人」が 1.1ポイント、それぞれ減少となっている。

年代別にみると、10代をのぞく全ての年代で「2~3人」が最も多く、10代は「4~5人」が最も多くなっている。

(表 8-1、8-2 参考①) 年代別旅行形態・同行者数割合 (件) [29 年]

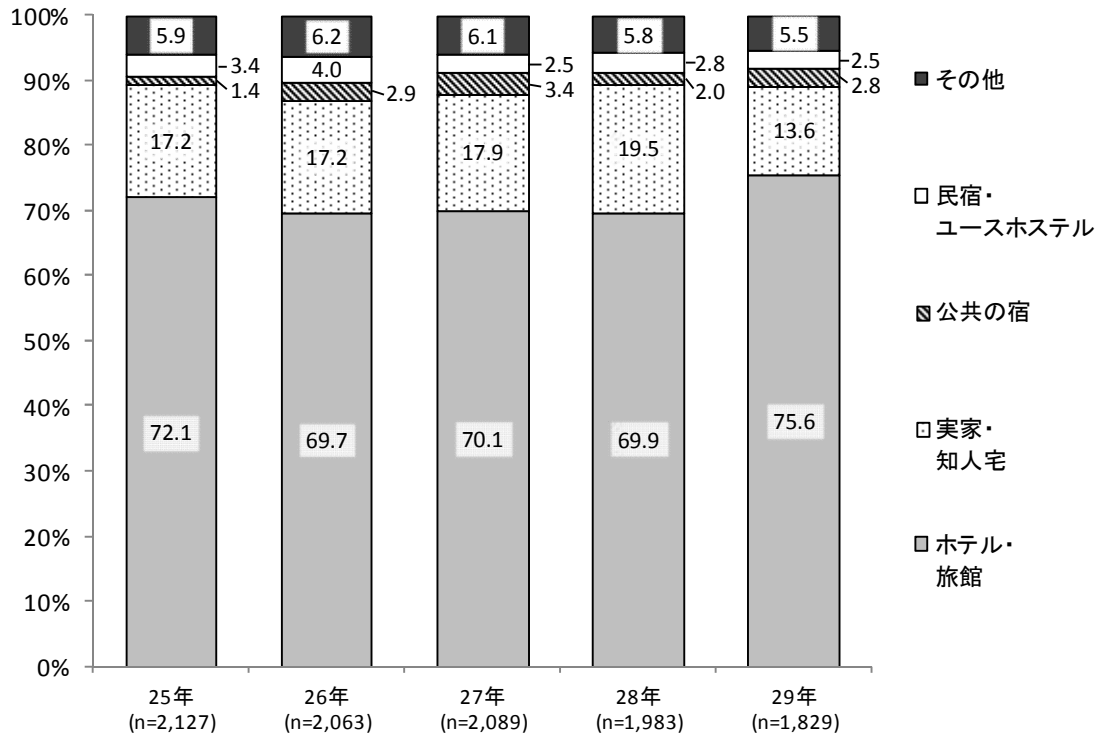
	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10代	2	4	11	3		6	1	2									
20代	57	101	27	5		126	12	5		1	1	1	5	11	1	2	1
30代	54	238	130	17		105	15	4	1			2	5	8			2
40代	92	312	127	22	1	54	10	5		1			11	2	1		
50代	77	345	66	5		21	6	2		4		1	7	3		4	
60代以上	83	316	55	19		27	21	7		1		3	11	2	2	2	2

年代別に旅行形態と同行者数の関係を見ると (表 8-1、8-2 参考①)、10代は「4~5人の家族」が最も多く、20代では「2~3人の友人知人」と「2~3人の家族」が多くなっている。30代と40代は「2~3人の家族」と「4~5人の家族」が、50代と60代以上は「2~3人の家族」と「1人」が多くなっている。

9 宿泊施設割合

9.1 年間

(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合 (%)



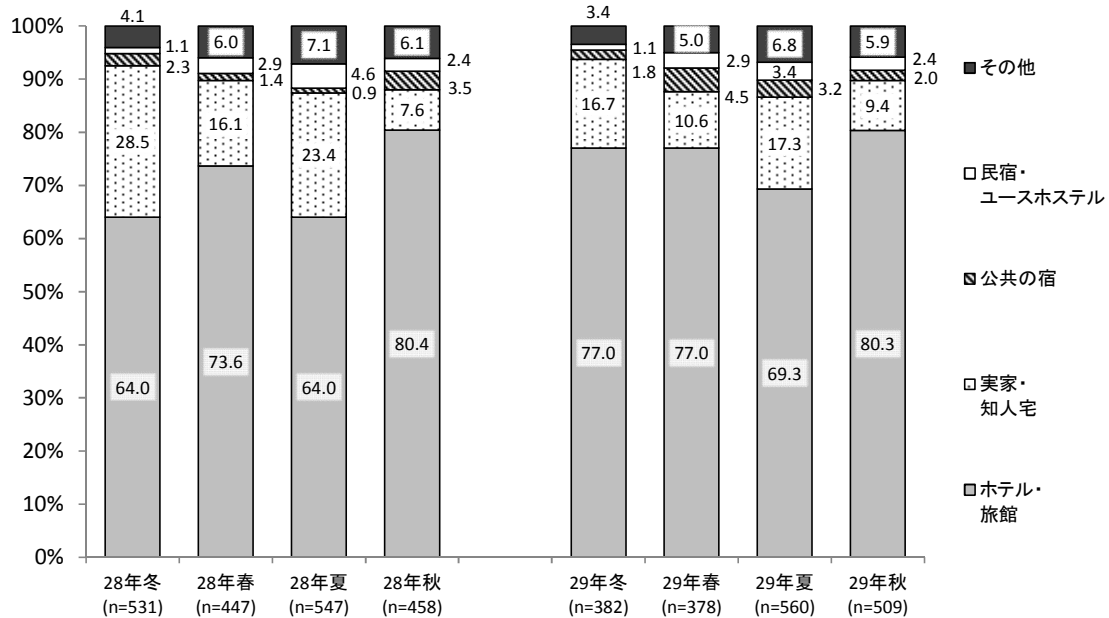
県内で利用された宿泊施設の割合は（図 9-1）、「ホテル・旅館」が 75.6%で最も多く、次いで「実家・知人宅」が 13.6%、「その他」が 5.5%、「公共の宿」が 2.8%、「民宿・ユースホステル」が 2.5%と続いている。

前年と比べ、「ホテル・旅館」が 5.7ポイント、「公共の宿」が 0.8ポイントと、それぞれ増加し、「実家・知人宅」が 5.9ポイント、「民宿・ユースホステル」と「その他」が 0.3ポイントと、それぞれ減少している。

平成 25 年度の調査から通してみると、「ホテル・旅館」は過去最大、「実家・知人宅」と「その他」は過去最小となっている。

9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合 (%)



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると（図 9-2）、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、冬季は「ホテル・旅館」が 13.0 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 11.8 ポイント減少となっている。

春季は「ホテル・旅館」が 3.4 ポイント、「公共の宿」は 3.1 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 5.5 ポイント減少となっている。

夏季は「ホテル・旅館」が 5.3 ポイント、「公共の宿」が 2.3 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 6.1 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 1.2 ポイント減少となっている。

秋季は「実家・知人宅」が 1.8 ポイント増加し、「公共の宿」が 1.5 ポイント減少となっている。

9.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合 (%)

		ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
10 代	28年 (n=32)	75.0	16.7	0.0	0.0	8.3
	29年 (n=22)	45.5	41.0	4.5	4.5	4.5
20 代	28年 (n=267)	62.9	26.8	1.5	2.9	5.9
	29年 (n=248)	75.0	14.9	1.6	2.0	6.5
30 代	28年 (n=502)	66.5	23.4	2.2	1.9	6.0
	29年 (n=398)	76.9	13.6	2.2	3.0	4.3
40 代	28年 (n=580)	70.0	19.3	1.1	2.6	7.0
	29年 (n=452)	77.0	11.1	3.3	2.4	6.2
50 代	28年 (n=341)	75.4	15.1	1.9	3.8	3.8
	29年 (n=362)	78.5	11.6	3.9	1.9	4.1
60代以上	28年 (n=367)	73.3	14.2	3.3	3.1	6.1
	29年 (n=347)	71.5	16.4	2.6	2.9	6.6

年代別利用宿泊施設割合をみると、全ての年代で「ホテル・旅館」が最も多くなっている。

前年と比べると、10代は「実家・知人宅」などが増加し、「ホテル・旅館」が減少となっている。

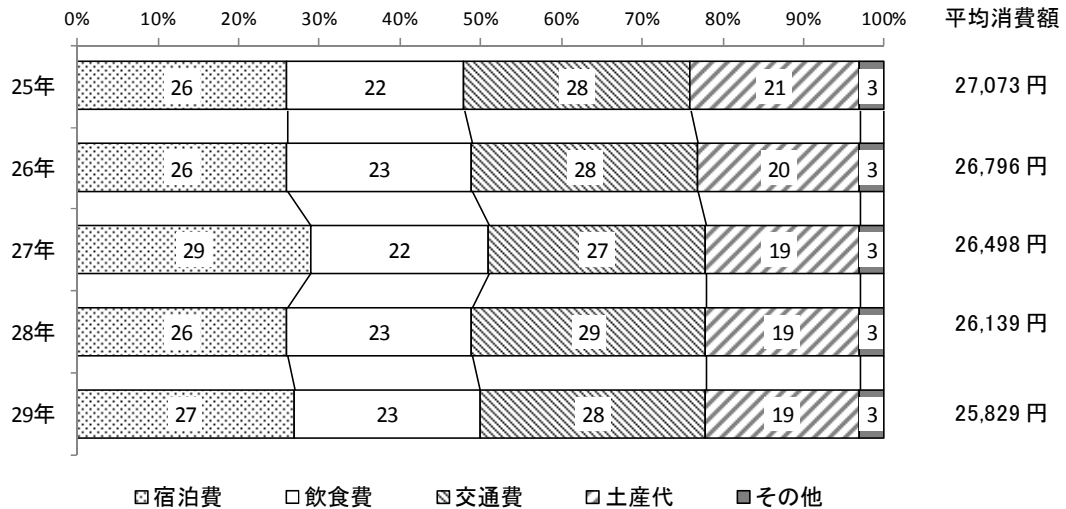
20代と30代は「ホテル・旅館」が増加し、「実家・知人宅」が減少しており、40代と50代は「ホテル・旅館」と「公共の宿」が増加し、「実家・知人宅」が減少となっている。60代以上は「実家・知人宅」が増加し、「ホテル・旅館」と「公共の宿」が減少となっている。

10 県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合 (%)、同平均消費額 (円)



県内消費額の年間平均金額は、前年と比べ 310 円の減少の 25,829 円となっている。費目別でみると、「交通費」が 28%と最も多く、次いで「宿泊費」が 27%、「飲食費」が 23%と続いている。

(図 10-1 参考①) 県内平均消費額費目別内訳 (円)

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他
27年	7,578	5,830	7,141	5,182	767
28年	6,747	5,954	7,759	4,914	765
29年	6,922	6,003	7,266	4,815	823

費目別の平均消費額を前年と比べると (図 10-1 参考①)、「宿泊費」が 175 円、「その他」が 58 円、「飲食費」が 49 円増加し、「交通費」が 493 円、「土産代」が 99 円減少となっている。

平成 27 年度の調査から通してみると、「飲食費」と「その他」は過去最大、「土産代」は過去最小となっている。

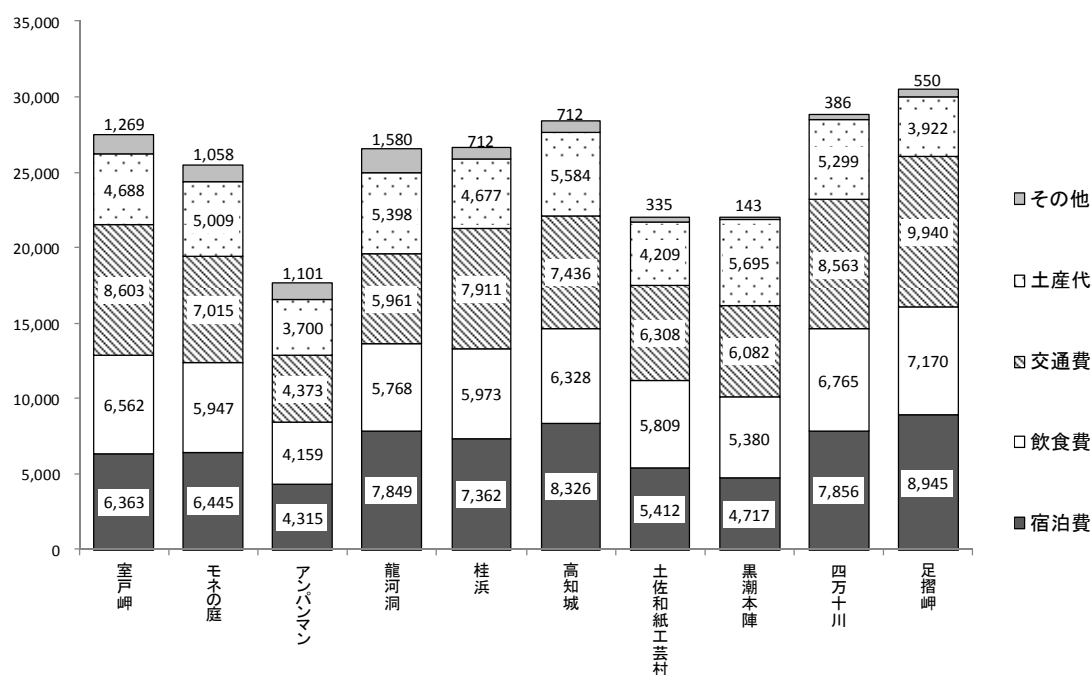
(図 10-1 参考②) 調査地別県内平均消費額 (円) [29 年、28 年]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
28年	27,869	27,767	14,916	25,511	27,819	30,125	20,068	20,250	29,539	33,381
29年	27,485	25,474	17,648	26,556	26,635	28,386	22,073	22,017	28,869	30,527
前年との差	▲ 384	▲ 2,293	2,732	1,045	▲ 1,184	▲ 1,739	2,005	1,767	▲ 670	▲ 2,854

調査地別の年間平均消費額をみると (図 10-1 参考②)、「足摺岬」が 30,527 円で最も高く、次いで「四万十川」が 28,869 円、「高知城」が 28,386 円と続いており、「アンパンマンミュージアム」が 17,648 円で最も低くなっている。

前年と比べ、「アンパンマンミュージアム」が 2,732 円、「土佐和紙工芸村」が 2,005 円の増加となっており、その一方で「足摺岬」が 2,854 円、「モネの庭」が 2,293 円の減少となっている。

(図 10-1 参考③) 調査地別県内平均消費額費目別内訳 (円) [29 年]



調査地別に費目別の平均消費額をみると (図 10-1 参考③)、龍河洞と高知城では「宿泊費」が、その他の調査地では「交通費」が最も多くなっている。

(参考) 県外観光客1人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	H29	H28	H27	H26	H25	H24	(H24~28平均)
県外観光客総数(人)	4,406,363	4,243,538	4,086,981	4,012,614	4,071,766	3,839,714	4,050,923
	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)					
	客船 (乗船客数)	客船 (乗船客数)					
	① 4,302,503	4,182,105	4,086,981	4,012,614	4,071,766	3,839,714	4,050,923
	② 103,860	61,433					
県外観光客一人当たり消費額(円)	客船除く 25,829	26,139	26,662	26,796	27,073	26,064	26,547
<内訳>	6,922	6,747	7,682	7,047	7,028	6,679	7,037
宿泊費							
飲食費	6,003	5,954	5,827	6,253	5,923	5,858	5,963
交通費	7,266	7,759	7,153	7,383	7,608	7,315	7,444
土産	4,815	4,914	5,171	5,210	5,683	5,458	5,287
その他	823	765	829	903	831	754	816
県外観光客の総消費額(百万円)	客船除く総消費額 ①×② 111,129	109,316	108,967	107,522	110,234	100,078	107,223
	客船乗船客等による消費額 1,481	850					
	112,610	110,166					
客船除く生産誘発効果(百万円)	170,151	169,550					
客船の生産誘発効果(百万円)	1,877	1,211	165,436	163,263	167,434	152,004	144,705
生産誘発効果(百万円)	172,028	170,761					
生産誘発倍率(倍)	1.53	1.55	1.52	1.52	1.52	1.52	1.52

10.1.2 四季別

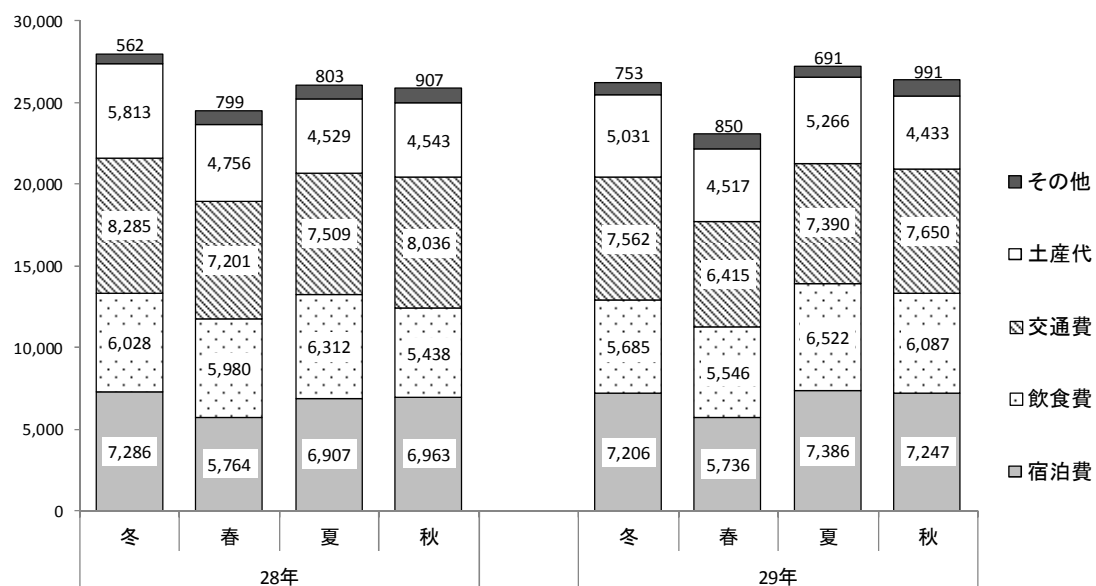
(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合 (%)、同平均消費額 (円) [29 年、28 年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	28年	26	22	30	20	2	27,974円	▲ 1,737円
	29年	27	22	29	19	3	26,237円	
春	28年	23	25	30	19	3	24,500円	▲ 1,436円
	29年	25	24	28	19	4	23,064円	
夏	28年	27	24	29	17	3	26,060円	1,195円
	29年	27	24	27	19	3	27,255円	
秋	28年	27	21	31	18	3	25,887円	521円
	29年	27	23	29	17	4	26,408円	

四季別の平均消費額を前年と比べると、夏季が 1,195 円、秋季が 521 円の増加となっており、冬季が 1,737 円、春季が 1,436 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は夏季と秋季が横ばい、冬季と春季が増加となっている。「飲食費」は秋季が増加、冬季と夏季が横ばい、春季が減少となっている。「交通費」はすべての調査時期が減少となっている。「土産代」は夏季が増加、春季が横ばい、冬季と秋季が減少となっている。「その他」は夏季をのぞく調査時期が増加、夏季が横ばいとなっている。

(図 10-3) 四季別県内平均消費額費目別内訳 (円) [29 年、28 年]



各費目について最も高くなった時季と平均消費額は、「宿泊費」が夏季の7,386円、「飲食費」が夏季の6,522円、「交通費」が秋季の7,650円、「土産代」が夏季の5,266円、「その他」が秋季の991円となっている。

前年と比べ、冬季と春季は「その他」が、夏季は「宿泊費」「土産代」「飲食費」が、秋季は「宿泊費」「飲食費」「その他」が、それぞれ増加となっている。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [29年、28年]

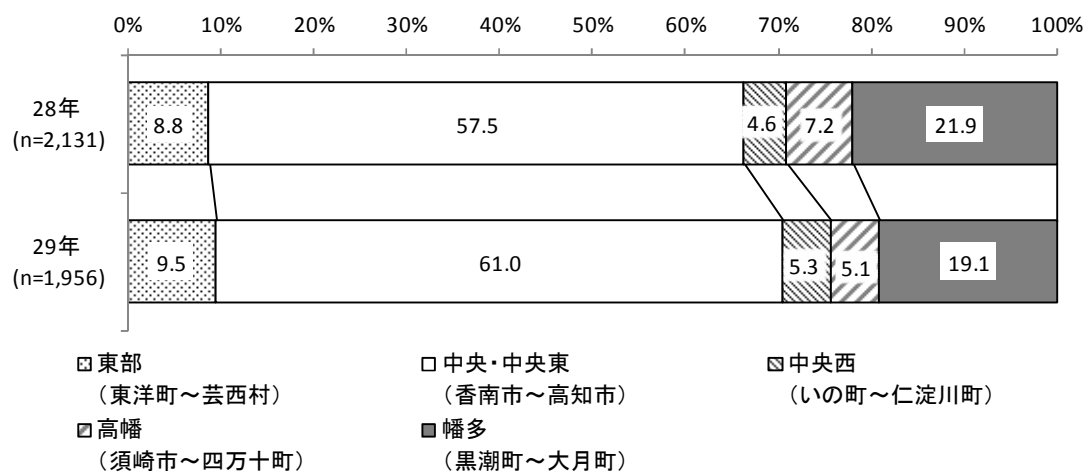
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	28年	27	20	32	17	4	23,411円	▲ 925円
	29年	27	24	24	21	4	22,486円	
20 代	28年	22	24	34	17	3	23,468円	270円
	29年	22	26	32	17	3	23,738円	
30 代	28年	24	24	29	19	4	23,266円	1,211円
	29年	27	23	28	18	4	24,477円	
40 代	28年	26	23	29	19	3	27,319円	▲ 1,366円
	29年	28	23	27	19	3	25,953円	
50 代	28年	29	22	28	19	2	27,897円	▲ 1,671円
	29年	28	22	28	20	2	26,226円	
60代以上	28年	26	21	30	20	3	28,624円	▲ 337円
	29年	27	23	27	19	4	28,287円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると30代が1,211円、20代が270円の増加となっており、50代が1,671円、40代が1,366円、10代が925円、60代以上が337円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は30代、40代、60代以上が増加、10代と20代が横ばい、50代が減少となっている。「飲食費」は10代、20代、60代以上が増加、40代と50代が横ばい、30代が減少となっている。「交通費」は50代が横ばい、その他の年代が減少となっている。「土産代」は10代と50代が増加、20代と40代が横ばい、30代と60代以上が減少となっている。「その他」は60代以上が増加、その他の年代が横ばいとなっている。

11 宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合 (%)



県内での宿泊地域をみると (図 11-1)、「中央・中央東」が 61.0% で最も高く、次いで「幡多」が 19.1%、「東部」が 9.5%、「中央西」が 5.3%、「高幡」が 5.1% と続いている。前年と比べ、「中央・中央東」が 3.5 ポイント、「東部」と「中央西」が 0.7 ポイントの増加となっており、「幡多」が 2.8 ポイント、「高幡」が 2.1 ポイントの減少となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合 (%) [29 年]

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	35.1	7.3	42.9	3.2	2.6	8.9
モネの庭	28.2	7.5	51.1	4.0	1.2	8.0
アンパンマン	11.8	17.3	60.9	3.6	1.8	4.6
龍河洞	11.1	8.6	64.9	5.3	4.3	5.8
桂浜	3.8	4.2	75.4	5.3	1.9	9.4
高知城	1.5	2.9	83.9	4.4	3.3	4.0
土佐和紙工芸村	0.8	3.4	60.5	26.0	3.4	5.9
黒潮本陣	3.9	3.9	47.3	2.3	22.5	20.1
四万十川	0.5	2.1	30.7	3.2	9.5	54.0
足摺岬	4.1	3.3	31.9	3.3	5.7	51.7
全体	9.5	5.4	55.6	5.3	5.1	19.1

※背景色+太字は調査地ごとの上位2位まで

調査地別に宿泊地域をみると（P41:表 11-2）、四万十川と足摺岬は「幡多」「中央」の順で、桂浜と高知城は「中央」「幡多」の順で、その他の調査地は「中央」と調査地がある地域の順で、それぞれ多くなっている。

（表 11-3）調査地別県内利用宿泊施設割合（％） [29 年]

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
室戸岬	64.4	20.6	1.3	5.0	8.7
モネの庭	66.9	23.9	1.2	1.9	6.1
アンパンマン	77.3	20.0	0.9	0.0	1.8
龍河洞	79.3	15.3	1.5	1.5	2.4
桂浜	89.0	4.7	1.6	1.6	3.1
高知城	90.7	6.0	1.1	1.1	1.1
土佐和紙工芸村	62.1	15.5	12.9	2.6	6.9
黒潮本陣	60.2	23.7	8.5	2.5	5.1
四万十川	64.0	19.0	4.2	2.7	10.1
足摺岬	76.9	5.7	1.6	5.7	10.1
全体	75.6	13.6	2.8	2.5	5.5

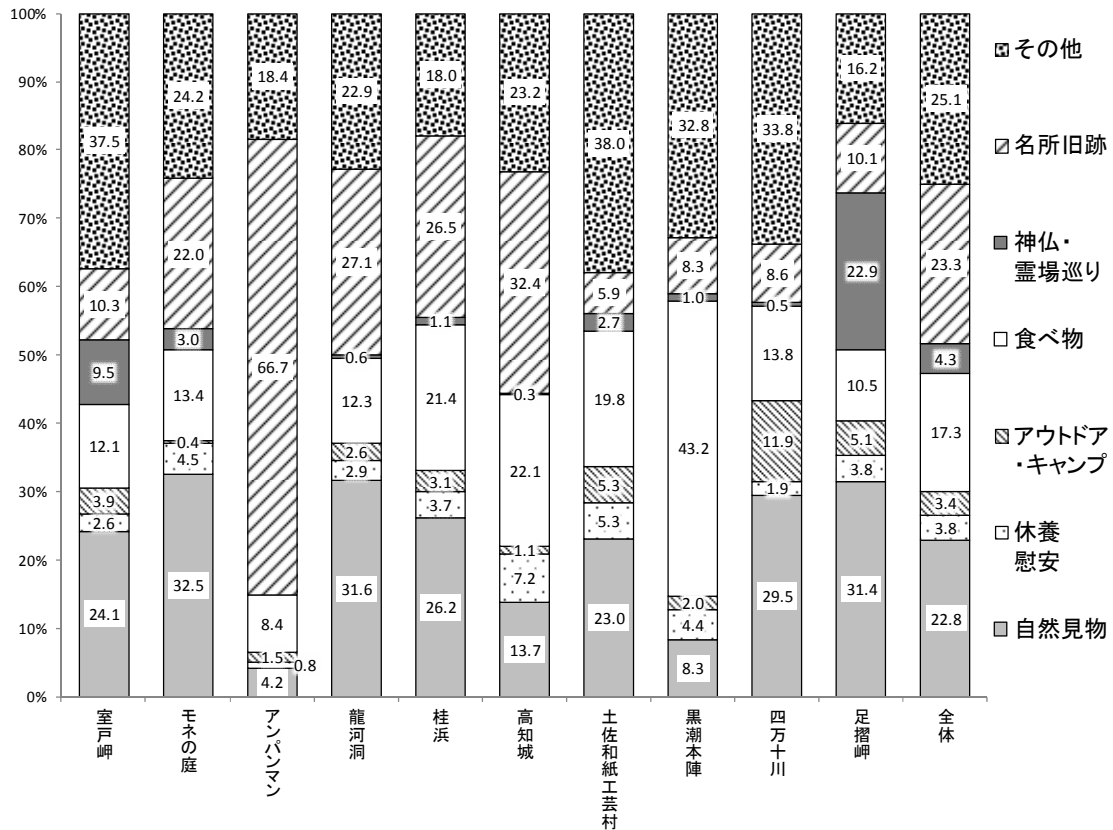
※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで

調査地別に宿泊施設をみると（表 11-3）、足摺岬は「ホテル・旅館」「その他」の順で、足摺岬をのぞく調査地は「ホテル・旅館」「実家・知人宅」の順で、それぞれ多くなっている。

12 調査地別割合

12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合 (%) [29 年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合 (%) [29 年]

	自然見物	休養慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡	その他
室戸岬	24.1	2.6	3.9	12.1	9.5	10.3	37.5
モネの庭	32.5	4.5	0.4	13.4	3.0	22.0	24.2
アンパンマン	4.2	0.8	1.5	8.4	0.0	66.7	18.4
龍河洞	31.6	2.9	2.6	12.3	0.6	27.1	22.9
桂浜	26.2	3.7	3.1	21.4	1.1	26.5	18.0
高知城	13.7	7.2	1.1	22.1	0.3	32.4	23.2
土佐和紙工芸村	23.0	5.3	5.3	19.8	2.7	5.9	38.0
黒潮本陣	8.3	4.4	2.0	43.2	1.0	8.3	32.8
四万十川	29.5	1.9	11.9	13.8	0.5	8.6	33.8
足摺岬	31.4	3.8	5.1	10.5	22.9	10.1	16.2
全体	22.8	3.8	3.4	17.3	4.3	23.3	25.1

※背景色+太字は調査地ごとの上位2位まで

調査地別の旅行目的をみると、「室戸岬」、「土佐和紙工芸村」、「四万十川」は“その他”が最も多く、次いで“自然見物”が続いている。その他の内訳では、「室戸岬」と「四万十川」は“帰省・知人訪問”が、「土佐和紙工芸村」は“なんとなく（ドライブを含む）”が多くなっている。

「モネの庭」は“自然見物”が32.5%と最も多く、次いで“その他”が24.2%が続いている。その他の内訳では、“帰省・知人訪問”、“祭り・イベント”などが多くなっている。

「アンパンマンミュージアム」と「高知城」は“名所旧跡”が最も多く、次いで“その他”が続いている。その他の内訳では、“なんとなく（ドライブを含む）”や“帰省・知人訪問”、“ビジネス”などが多くなっている。

「龍河洞」は“自然見物”が31.6%で最も多く、次いで“名所旧跡”が27.1%が続いている。

「桂浜」は“名所旧跡”が26.5%と最も多く、次いで“自然見物”が26.2%が続いている。

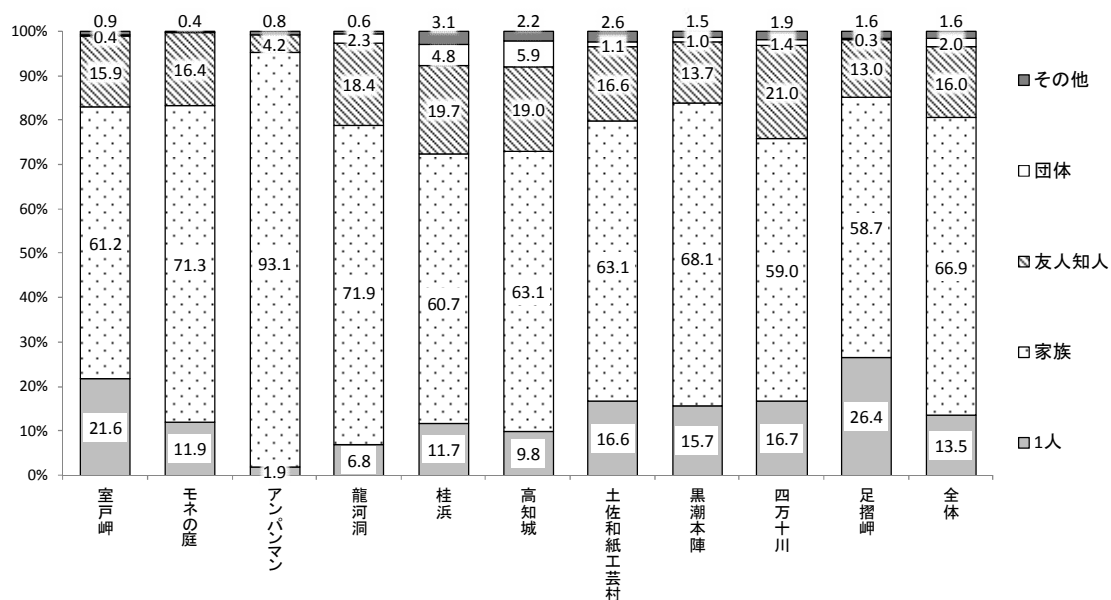
「黒潮本陣」は“食べ物”が43.2%と最も多く、次いで“その他”が32.8%が続いている。その他の内訳では、“帰省・知人訪問”、“なんとなく（ドライブを含む）”などが多くなっている。

「足摺岬」は“自然見物”が31.4%と最も多く、次いで“神仏・霊場巡り”が22.9%と続いている。

旅行目的別にみると、“自然見物”は「モネの庭」「龍河洞」「足摺岬」の順で、“休養・慰安”は「高知城」「土佐和紙工芸村」「モネの庭」の順で、“アウトドア・キャンプ”は「四万十川」「土佐和紙工芸村」「足摺岬」の順で、“食べ物”は「黒潮本陣」「高知城」「桂浜」の順で、“神仏・霊場巡り”は「足摺岬」「室戸岬」「モネの庭」の順で、“名所旧跡”は「アンパンマンミュージアム」「高知城」「龍河洞」の順で、それぞれ多くなっている。

12.2 旅行形態割合

(図 12-3) 調査地別旅行形態割合 (%) [29 年]

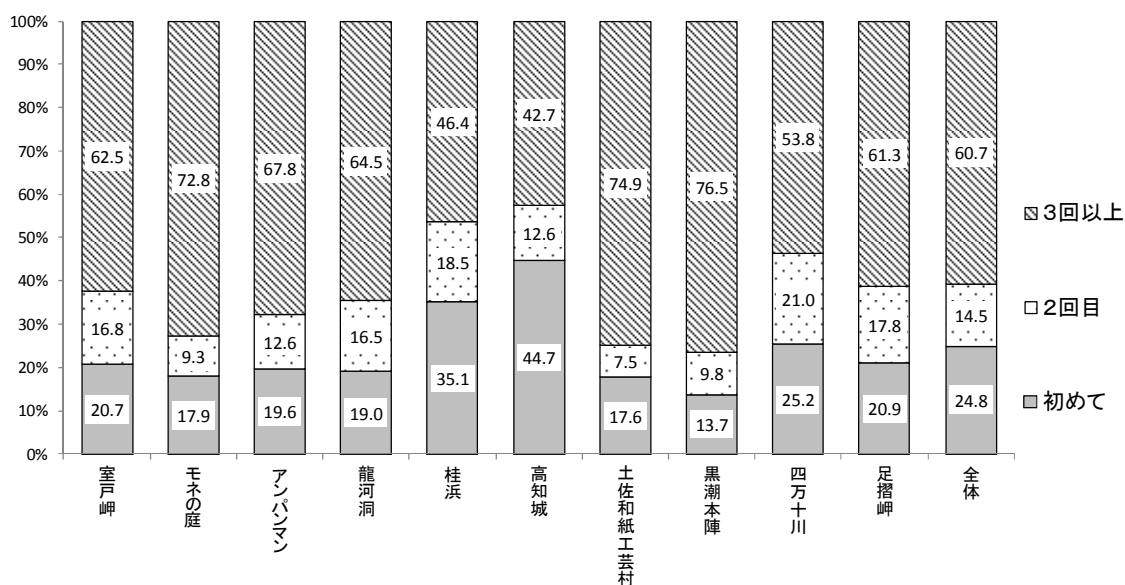


調査地別の旅行形態割合をみると（図 12-3）、全ての調査地で「家族」が最も多く、次いで、足摺岬、室戸岬、黒潮本陣は「1人」が、土佐和紙工芸村は「1人」と「友人知人」が、その他の調査地は「友人知人」が、それぞれ多くなっている。

旅行形態別にみると、「1人」は足摺岬、室戸岬、四万十川の順で、「家族」はアンパンマンミュージアム、龍河洞、モネの庭の順で、「友人知人」は四万十川、桂浜、高知城の順で、「団体」は高知城、桂浜、龍河洞の順で、それぞれ多くなっている。

12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合 (%) [29 年]



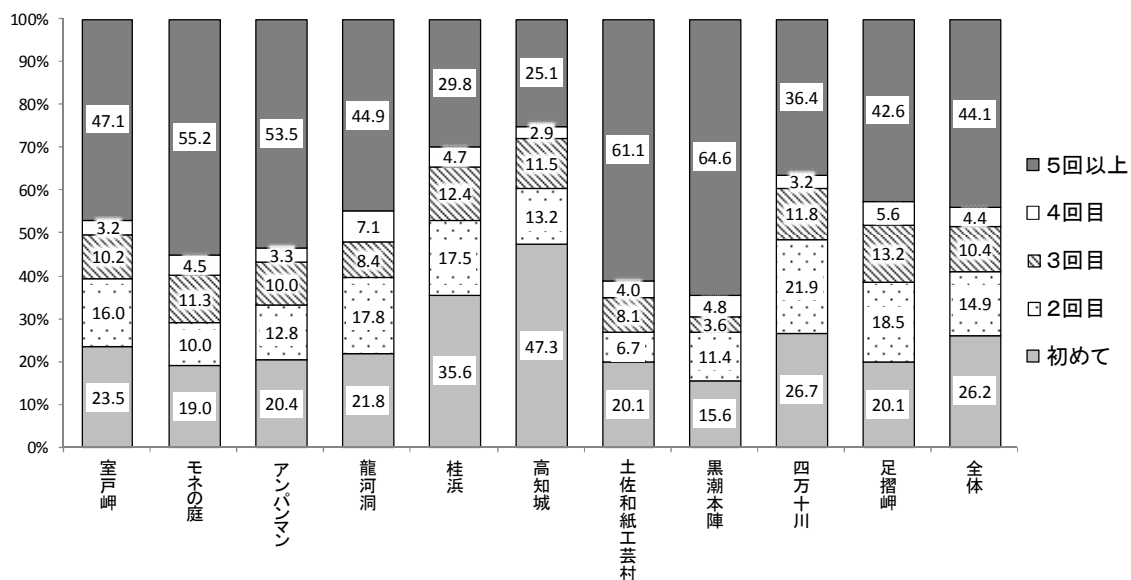
(図 12-4 参考①) 過去来県回数割合 (%)

	初めて	2回目	3回以上
26年	23.1	13.4	63.5
27年	20.4	13.4	66.2
28年	22.1	14.2	63.7
29年	24.8	14.5	60.7

全体の過去来県回数は、「初めて」の旅行者が 24.8%、「2回目」が 14.5%、「3回以上」が 60.7%となっている。前年と比べ「初めて」が 2.7 ポイント、「2回目」が 0.3 ポイント増加しており、「3回目」が 3.0 ポイント減少となっている。

来県回数別にみると、「初めて」は高知城、桂浜、四万十川の順で、「2回目」は四万十川、桂浜、足摺岬の順で、「3回以上」は黒潮本陣、土佐和紙工芸村、モネの庭の順で、それぞれ多くなっている (図 12-4)。

(図 12-4 参考②) 調査地別過去来県回数割合 (%) [29 年 春季～秋季]



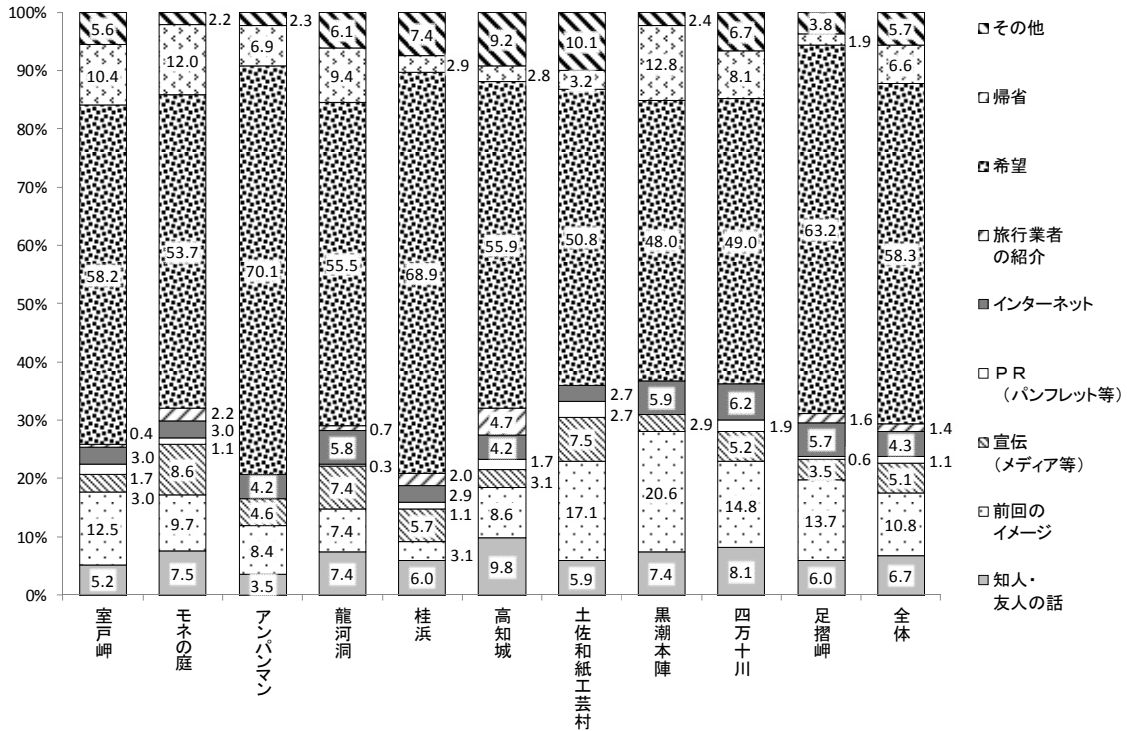
※調査項目が追加された 29 年春季以降の回答を集計した結果

全体の過去来県回数は、「5回以上」が 44.1%と最も多く、次いで「初めて」が 26.2%、「2回目」が 14.9%、「3回目」が 10.4%、「4回目」が 4.4%と続いている。

来県回数別にみると、「初めて」は高知城、桂浜、四万十川の順で、「2回目」は四万十川、足摺岬、龍河洞の順で、「3回目」は足摺岬、桂浜、四万十川の順で、「4回目」は龍河洞、足摺岬、黒潮本陣の順で、「5回以上」は黒潮本陣、土佐和紙工芸村、モネの庭の順で、それぞれ多くなっている (図 12-4 参考②)。

12.4 動機割合

(図 12-5) 調査地別動機割合 (%) [29年]



(表 12-6) 調査地別動機割合 (%) [29年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行業者の紹介	希望	帰省	その他
室戸岬	5.2	12.5	3.0	1.7	3.0	0.4	58.2	10.4	5.6
モネの庭	7.5	9.7	8.6	1.1	3.0	2.2	53.7	12.0	2.2
アンパンマン	3.5	8.4	4.6	0.0	4.2	0.0	70.1	6.9	2.3
龍河洞	7.4	7.4	7.4	0.3	5.8	0.7	55.5	9.4	6.1
桂浜	6.0	3.1	5.7	1.1	2.9	2.0	68.9	2.9	7.4
高知城	9.8	8.6	3.1	1.7	4.2	4.7	55.9	2.8	9.2
土佐和紙工芸村	5.9	17.1	7.5	2.7	2.7	0.0	50.8	3.2	10.1
黒潮本陣	7.4	20.6	2.9	0.0	5.9	0.0	48.0	12.8	2.4
四万十川	8.1	14.8	5.2	1.9	6.2	0.0	49.0	8.1	6.7
足摺岬	6.0	13.7	3.5	0.6	5.7	1.6	63.2	1.9	3.8
全体	6.7	10.8	5.1	1.1	4.3	1.4	58.3	6.6	5.7

※ 背景色+太字は動機ごとの上位2位まで

全体の動機割合をみると、「本人・家族の希望」が58.3%と最も多く、次いで「前回のイメージ」が10.8%、「知人・友人の話」が6.7%、「帰省」が6.6%と続いている。

動機別にみると、「知人・友人の話」は高知城と四万十川が、「前回のイメージ」は黒潮本陣と土佐和紙工芸村が、「宣伝（メディア等）」はモネの庭と土佐和紙工芸村が、「PR（パンフレット等）」は土佐和紙工芸村と四万十川が、「インターネット」は四万十川と黒潮本陣が、「旅行業者の紹介」は高知城とモネの庭が、「本人・家族の希望」はアンパンマンミュージアムと桂浜が、「帰省」は黒潮本陣とモネの庭が、それぞれ多くなっている。

13 総括

平成 29 年、高知県を訪問した県外旅行者数は 440 万を超え、これまでの過去最高であった平成 22 年の 435 万人を上回る事となった。

これは、クルーズ客船の寄港増や、平成 29 年 3 月から県全域で開催中の「志国高知 幕末維新博」が主な要因だと思われる。

また、日本銀行高知支店が発表する「金融統計・経済指標」によると、県全体の宿泊者数の伸びは、前年と比較して 1 月－3 月は 9.0%増、4 月－6 月が 7.8%増となっている。

幕末維新博を構成する県内 24 の歴史施設において、幕末維新博が開幕した 3 月から 12 月末までの入場者数は 138 万人を超え、中でも新しく開館したメイン会場の高知城歴史博物館では、年間目標の 12 万人を大幅に超える 18 万 3 千人の入館者数を記録した。そのような現状のなかで、調査で得られた分析結果と、旅行者の声などを参考に、県外旅行者の傾向、課題をみていく。

1. 1泊2日の旅行者増が意味すること

今年の特徴としては「1泊2日」の旅行者が県外旅行者全体の 42.3%で、前年と比較して 6.0 ポイント増と、大きく増加していることが挙げられる。その反面で「2泊3日」が 1.5 ポイント、「日帰り」が 1.2 ポイント減少した。平成 25 年の調査から通してみると、「1泊2日」の割合は過去最高である。それに伴い、県内旅行日数も 0.1 日減の 2.0 日となり、県内消費額も 25,829 円と、前年比で 310 円の微減となった。

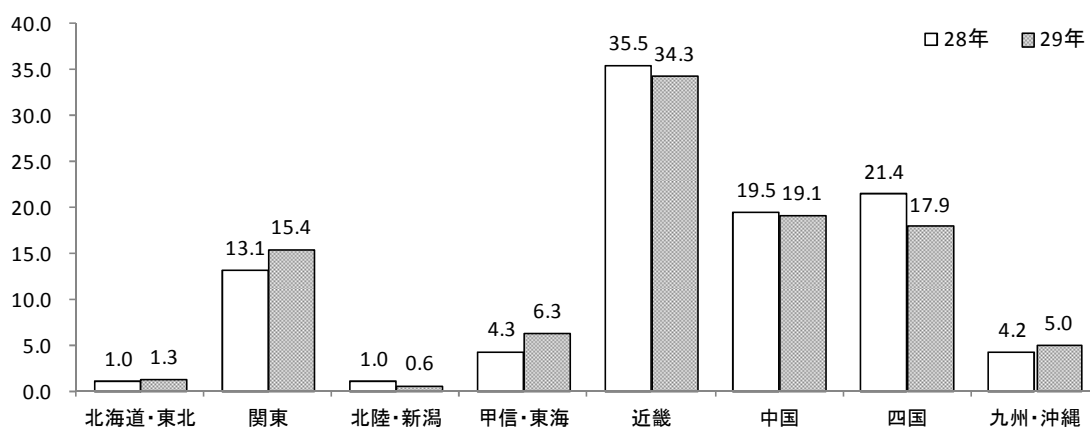
一方、過去来県回数割合をしてみると、「初めて」本県を訪れた方の割合は、24.8%と、過去 5 年間で一番高い割合となっている。

このことから、「志国高知 幕末維新博」が関心を呼び、初めて本県を訪れる旅行者が増加し、相対的に 2 回以上本県を訪れたことがあるリピーター層の割合が下がり、旅行日数の減とそれに伴う消費額の減が見られたものと推測される。

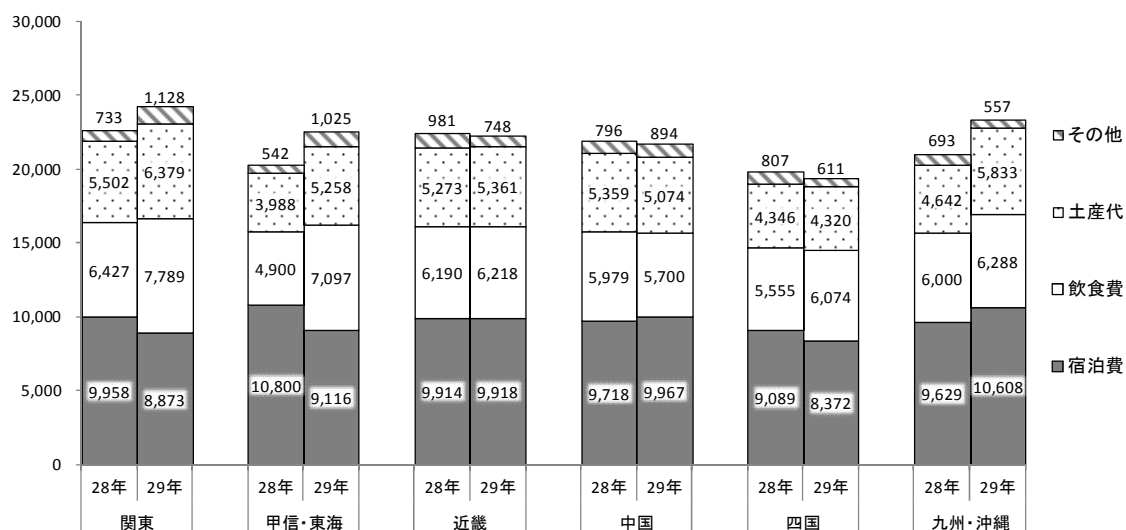
この新たに訪れていただいた旅行者にリピーターとなっただき、本県の強みである、自然・食・歴史、また、地元の人との触れ合いを楽しんでいただくなど、2泊、3泊とじっくり時間をかけて観光していただくことで、旅行日数の増と観光消費額の増を図っていくことが重要となる。

第二幕は平成 30 年 4 月 21 日からスタートしているが、維新博の PR と並行して「周遊観光」をしてもらう仕掛けづくり（PR や受け入れ態勢、龍馬パスポートの活用など）の充実は今後の課題として極めて重要だと思われる。

(参考 18) 発地ブロック別入込割合 (%) [1泊2日 / 29年、28年]



(参考 19) 主要発地ブロック別県内平均消費額 (円) [1泊2日 / 29年、28年] ※交通費除く



2. 関東からの旅行者

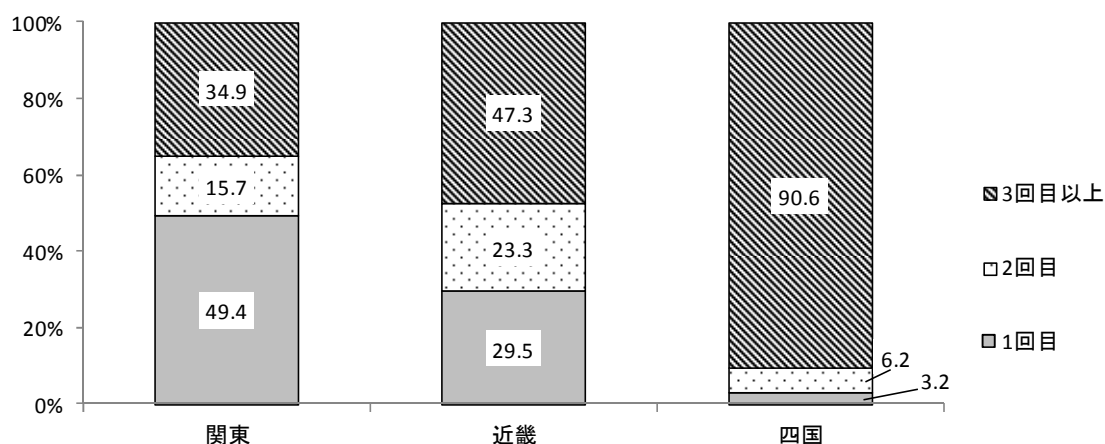
29年度調査の結果から、関東ブロックの入込割合が三年連続（全体割合のうち／27年 12.1%、28年 14.3%、29年 15.1%）で伸びていることがわかる。また、満足度調査「お客様の声アンケート」（29年度全体 1,033 通）においても、関東からの返信は28年度に 132 通だったものが、29年度は 191 通で前年比 4.4 ポイント増と大きく伸びている。

また、来県回数（参考 20）をみると、はじめて本県を訪れた割合がおよそ半数であり、近畿や四国と比較するとリピーターが伸びる余地があることがわかる。大手旅行会社の調

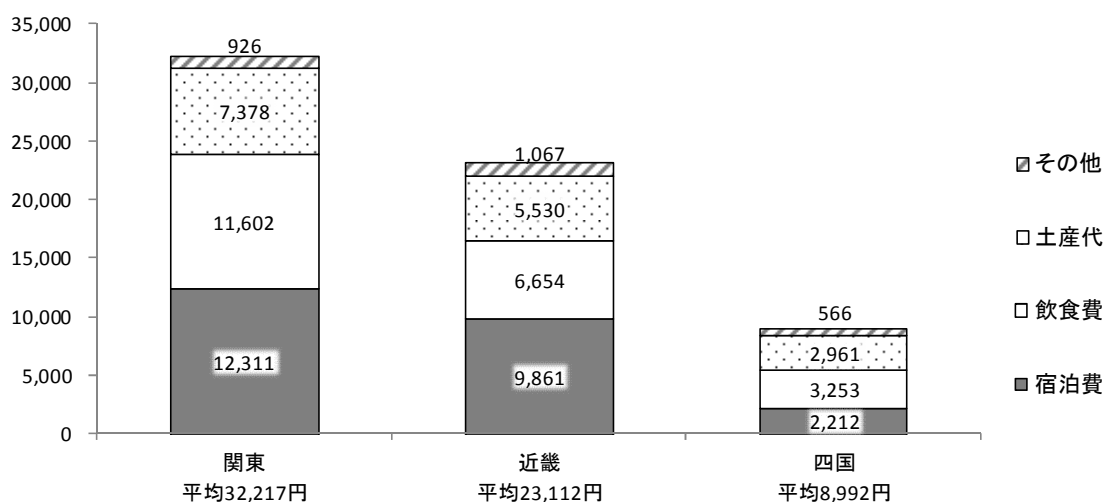
査では、“地元ならではの食がおいしい”、“地元の人々のホスピタリティを感じる”という項目で旅行者から高く評価されており、はじめて来県した旅行者にこれらの特徴・強みを実感してもらい、リピーターにつなげていくことが欠かせない。そのためには、旅行者の生の声である満足度調査において好評あるいは不評であった事柄から誘致や受け入れのヒントを探し、施策に反映していくことも重要である。

関東・近畿・四国の県内平均消費額（参考 21）をみると、関東は近畿と比較して 9,105 円多く、四国との比較では 23,225 円多いことになる（ともに交通費除く）など、経済波及効果が大いことは一目瞭然である。関東からの旅行者が増えていることは本県にとって良い傾向であり、関東は今後も特に重要視していくべき地域である。

（参考 20） 発地ブロック別過去来県回数割合（％） [29 年 / 関東、近畿、四国]



（参考 21） 発地ブロック別県内平均消費額（円） [29 年 / 関東、近畿、四国] ※交通費除く



3. 受け入れ体制の充実「声かけ」から

調査をしているなかで旅行者から「このあたりの観光地でお薦めの場所はないか？」とよく尋ねられる。高知でのメインの目的地（あるいはその次まで）は決めているが、後は到着してから決めようという人が多い。そういった旅行者に、着地型の観光情報をどう伝えるかは、課題の一つといえる。

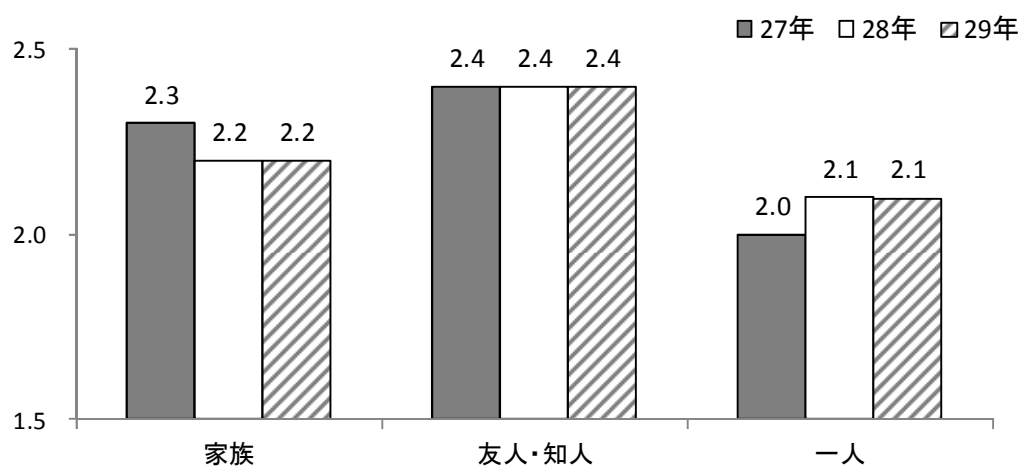
少しでも県内を周遊（観光クラスター）してもらうことは、滞在時間を長くし、県内消費額をあげることに繋がる。本県に滞在理由が無くなった旅行者は、例えば「香川でうどんを食べて近畿まで帰ろうか」という、発地までの“帰りながら観光”となる。これはもったいないこと。できるだけ本県に滞在して消費額をあげていくことが望ましい（参考22、23）。

どんな観光地があるか知らない旅行者にとって、主要な観光地に、そこから周辺観光地を案内する看板を設置。周遊型の着地型観光パンフレットの配布などは必要だが、それだけでは良さは伝えきれない。最も効果的なのが、地元民の口コミだといわれている。

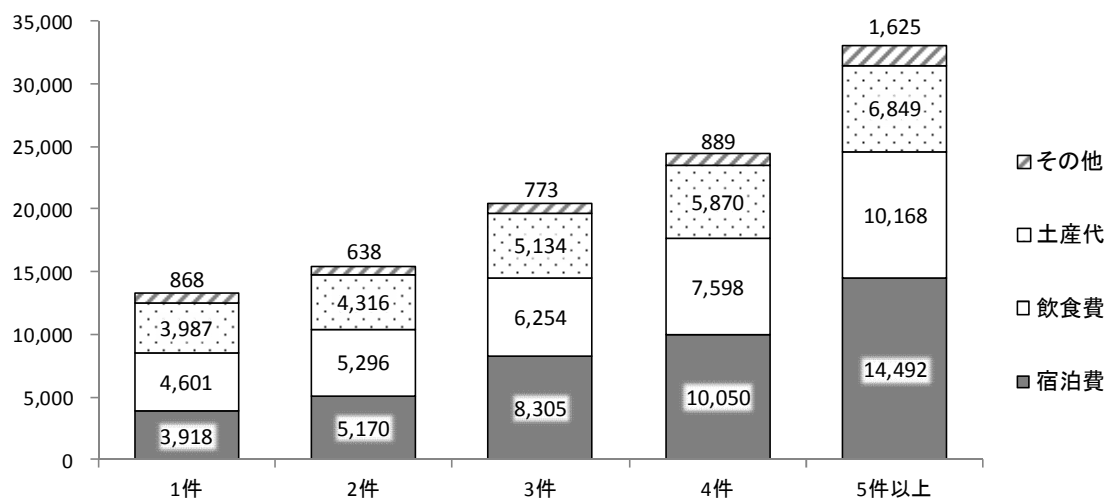
そのために、旅行者と触れ合う機会が多い「宿泊施設の従業員」、県内で活動する観光ボランティア団体のメンバー、主要観光地で営業する飲食店や土産物店スタッフらが、積極的に県外旅行者に「声かけ」をするなどのホスピタリティを育成することが望まれる。

すでに先行して「おもてなしタクシー」制度があり、観光関係事業者等を対象とした旅行者受け入れのための「おもてなし研修」も行われているが、さらなる充実が求められている。

(参考 22) 旅行形態別平均立寄件数 (件) [27年、28年、29年]



(参考 23) 立寄件数別県内平均消費額 (円) [29 年] ※交通費除く



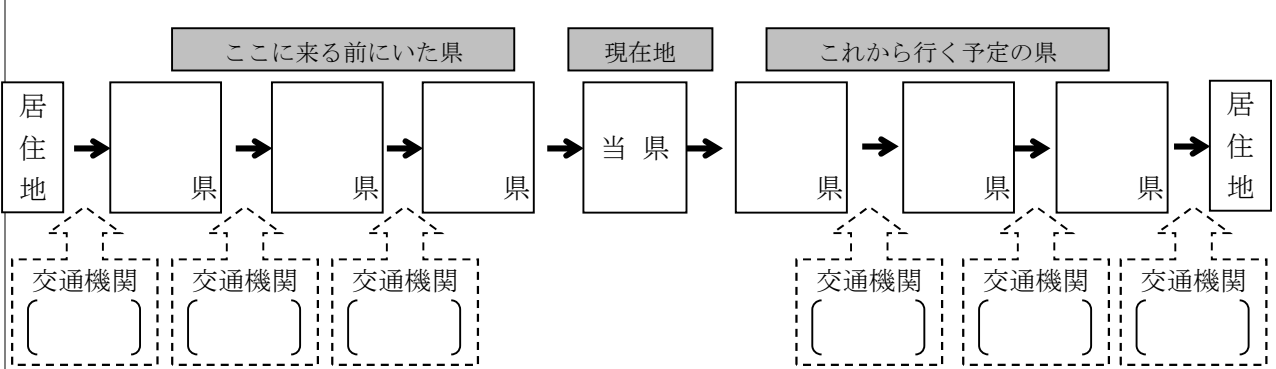
4. 組み合わせて、高知らしい観光へ

平成 30 年 4 月からは「志国高知 幕末維新博」第二幕がスタートしている。平成 31 年度は「アウトドア」、「生活文化」、「食」をテーマとした地域博覧会「土佐れいほく博」が開催されることが決まっている。吉野川を使ったラフティングの充実や早明浦ダム湖での体験型メニュー、本山町に新たなアウトドア施設が整備されようとしている。また今年 4 月には、越知町に大手アウトドアメーカーの監修したキャンプ場が完成した。同じようなキャンプ施設は土佐清水市でも動き出しており、本県の豊かな自然を活かしたアウトドアの新たな旅行者が期待できる。

カツオのタタキを代表する「食」の評価の高さに加え、体験型観光の底上げをしてきた地域博（幡多、東部、奥四万十）の開催。坂本龍馬をはじめとする偉人のスポットと歴史文化施設の充実を通じて、観光力を磨き上げてきた。そして本県の豊かな自然を活かした観光へと進んでいく。

これまで“観光の潜在能力”は高くてもそれを活かしていなかった本県に、旅行者の多様な価値観に対応できるメニューが揃いつつあることは、県内外に観光を PR する上でも非常に効果的である。そしてこれからの課題は、市町村または広域ごとに、得意とするジャンルを組み合わせる旅行商品化（あるいは PR）するコーディネート力と、それを魅力的に伝えるデザイン力となるのではないだろうか。

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入下さい



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ - 1 貸切バス
- ⑤ - 2 観光バス (MY遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
- ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
- ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください。

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

- ※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
- ※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
- ※ ← 表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用	使用費用
①交通費	(県内分) 円	(県外分) 円
②宿泊費	(県内分) 円	
③土産代	(県内分) 円	
④飲食費	(県内分) 円	
⑤入場料	(県内分) 円	
⑥その他	(県内分) 円	
⑦パック料金		円
		↑ <input type="checkbox"/> 県内分のみ もしくは <input type="checkbox"/> 県外分含む

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせ下さい）

- ※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせ下さい

※調査票コード	都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
1. 観_共通_日				:	

- ・高知県では、観光博覧会「志国高知幕末維新博」に取り組んでいます。
- ・また、約700施設で特典が受けられる「龍馬パスポート」を発行しています。

Q1 高知県観光博覧会「志国高知幕末維新博」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

Q2 「龍馬パスポート」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった。

Q3 「龍馬パスポート」をお持ちですか。(Q2で1または2と答えた方のみ。)

- 1 持っている。(パスポート種別：1 青 2 赤 3 ブロンズ 4 シルバー 5 ゴールド)
2 現在申請書にスタンプを集めている。
3 持っていない。

Q4 約2,000件の観光情報をスマホアプリに集約した「公式！こうち旅アプリ」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

- ・高知県では、豊かな自然を生かしたスポーツツーリズムを推進しており、特にサイクリング観光は、コースの設定等を行うなど、取り組みを進めています。

Q5 今回、主にサイクリングを目的に高知県に来ましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q6 今回の旅行でレンタサイクルを利用しますか(しましたか)。

- 1 はい 2 いいえ

- ・高知県では、観光客の満足度向上のため、「おもてなしトイレ」や「おもてなしタクシー」の取組を進めています。

Q7 「おもてなしトイレ」をご存知ですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q8 「おもてなしトイレ」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしトイレ」の快適性について

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】

Q9 「おもてなしタクシー」をご存知ですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q10 「おもてなしタクシー」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしタクシー」の接客マナーについて

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】

☆☆ 調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆